

ヒ二六時中檢官査吏ノ巡廻アルモ到底之ヲ制止スル能ハス遂ニ是
 徒法ニ屬センノミ苟モ其徒法アラシヨリハ寧ロ之ヲ自由ニ付スル
 ノ公正ナルニ如カサルナリ今内閣委員ノ言ノ如ク已ニ酒ニ非常ノ
 稅ヲ増課セハ自釀ノ倍加スルハ或ハ然ラン然レモ其自釀ノ甚シキ
 ニ至ラサランコトヲ欲スルハ則チ販賣ヲ禁止シテ充分足レリトス蓋
 シ一利一害ハ素ヨリ法律ト雖モ免レサルモノナリ故ニ之ヲ重クシ
 テ其利ノ多キヲ欲センヨリ如カス其害ノ少キヲ取ランニハ是本官
 カ此修正アル所以ナリ

○番一 戸田 秋成 如今論者ノ陳述ニ依レハタトヒ本按ヲ施行スルモ取
 締不行届ニシテ到底其効ナク寧ロ制限ハ立テ難シト云フモノ、如
 シ然レハ則チ既ニ其取締ノ道ヲ得ハ論者モ亦之ニ同意ナルヤ明ナ

リ蓋シ之カ取締ヲ爲サント欲シ日々官吏ヲ派出スルモ或ハ其實際
 ニ漏ル、所ナシトスヘカラスト雖モ其便宜ニヨリ之ヲ取締ルノ法
 モ亦自カラ之レナキニ在ラス大抵人情ハ他人ノ爲メニ自己ノ利得
 ヲ害セラル、ヲ忌ムモノナリ而シテ自釀ノ多キハ必ス田舎農家ニ
 多ク故ニ其自釀ノ爲メニ該村或ハ鄰里ニ在ル酒造營業者ハ直ニ之
 カ妨害ヲ蒙ムルヲ以テ諺ニ蛇道蛇知ト云カ如ク互相注意ニ怠ラス
 能ク其密賣多釀ヲ偵知スルモノナリ是所謂ルトモ吟味ナル者ニシ
 テ斯ル一種ノ便法ハ亦社會ノ賜ナリ豈一概ニ取締リノ行届カスト
 云ヲ得ンヤ

○十五番 安場 保和 内閣委員ハ今共吟味ノ諺ヲ引キ取締ヲ爲スヲ得ヘシ
 ト云フト雖モ苟モ我堂ヤタル政府ニシテ鄙劣ナル共吟味等ニ依頼

シ之ヲ法律ノ補翼トナスカ如キハ決シテ之レアラサルヲ信ス若シ
○誠ニ説ノ如クシハ本官ハ耳ヲ掩フテ聽クニ忍ヒス益々斯ル不當ノ
法ヲ廢スルヲ欲スルナリ

○三十三番 渡邊 本官ハ又問題ニ反對ナリ抑々酒ハ無益有害物ナレ
ハ須ラク之ニ重税スヘシトハ乃チ本按ノ精神ナルヘシ既ニ之ヲ以
テ精神トセハ自釀品モ亦均ク其無益有害物タルハ一ナリ然ルニ賣
品ノ一方ノミ重クシ而シテ自釀ニ輕キハ豈不公平ナラスヤ又或説
ニ寒國ニテハ酒ハ必要物ナリト云フモ是ニ地方ノ習慣ヲ以テ一般
ニ寬典ヲ及ホサントスルモノナリ此ノ如キハ輕重宜ク斟酌セザル
ヘカラス然レモ原按ノ如キハ之ヲ充分ト爲サス因テ本官モ亦時機
ヲ得テ一修正説ヲ提出セントス

○三番 神田 十五番ノ説ハ非ナリ夫レ本按ノ精神ハ一ニ増税ニアリ

然ルニ獨リ自釀ノ制限ヲ寬ニセハ必ス營業税ハ減シ終ニ本按ノ目
的ヲ達スヘカラサルナリ是レ恰モ本按ハ自釀保護税法ヲ廢トナル
ハ法律豈此ノ如クスヘケンヤ

○議長 十五番ノ説ニ同意者ハ起立セヨ

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ説ハ消滅ス

○三十六番 柴原 本官修正ノ要旨ハ先ツ本按ヲ廢シ之ヲ酒造税則中

○キ人 本 欲スルナリ蓋シ本官ハ固ヨリ之ヲ三石トスルノ精神ニ
シテ且文字モ亦修正スル所アラントスルナリ然レモ本按ハ頗ル重
大ノ事ナルヲ以テ輕易ニ其説ヲ發スヘカラス依テ之ヲ修正委員ニ

附托セハ恐ラク取舍宜キヲ得テ適當ノ按トナラント思惟ス因テ之ヲ建議ス

○十六番細川潤次郎二十六番ノ建議ヲ賛成ス本官ハ前ニ酒造稅則第三

十五條追加ヲ論スル時ニ方リ既ニ此自釀ノ按ヲモ併テ其附則トシ

稅則ノ尾ニ添ント云ヘリ然ルニ今二十六番ノ本按ヲ廢シ更ニ酒造

稅則中ニ入ルハカ爲メ修正委員ニ附托セントノ說ハ大ニ本官ノ意

ニ適セルモノナリ只其之ヲ附托セハ其修正ニ當リ或ハ委員ニ於テ

疑惑アラシコトヲ恐レ此ニ豫メ本官ノ意見ヲ概陳シテ其參考ニ供セ

ントス抑々本案ノ如ク自家飲料ノ一法令ヲ特立セシハ能ク直接ニ

三千五百萬人ノ腦裡ニ深入セシメンカ爲メ故ヲニ太政大臣ノ名ヲ

以テ布告スルモノナルヘケレ既ニ之ヲ人民ニ公示スル上ハ縦ヒ

獨立トナスモ或ハ附則トスルモ決シテ別異アルヲナシ然レ亦之

ヲ酒造稅則各條ノ間ニ插入セントスルハ太々難シ如何トナレハ若

シ之ヲ插入セハ讀者往々營業者ノ事トノミ看過スルノ憂ヒナキ能

ハサレハナリ仍テ衆目ノ標的トナサンカ爲メ著ク其尾ニ付スルヲ

可トス然ルニ本按末尾ニ營業者ヲ以テ論スヘシトアルハ乃チ造石

稅ヲ取立ルノ意ナラン此ノ如キハ所謂罰則ノ文体ニテ一ノ布告中

ニ之ヲ掲クルハ太々穩安ナラス故ニ之ヲ附則トシ一石以上ヲ釀ス

ル者ハ總テ本則ニ從フヘシトノ意ニ爲サハ自ラ其文体ヲ得シカ若

シ修正ニ決セハ冀クハ此意ヲ參考ニ供セラレシコトヲ

○三十三番渡邊昇廿六番修正ノ精神ハ可ナルモ更ニ修正委員ヲ設ケ

テ之ニ附托スルヲ要セスト爲ス其故ハ茲ニ十六番ハ一石ノ制限ヲ

立ツヘト云ヒ二十六番ハ三石ニ増加スヘシト云ヒ其石數ニ差等
 ○アサト雖其精神ハ共ニ本按ヲ酒造稅則ノ附則トナサントスル
 外ニ出テス本官ノ腹案モ亦同シ仍テ本官ハ制限ヲ三石トシ其他ハ
 十六番ノ修正文ノ如クシテ決ヲ取リテ可ナラントス此ヲ如キハ固
 ヲ以修正ノ手數ヲ要セサルナリ
 ○議長廿六番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨ
 起立者十五人
 ○議長ノ多數ナルヲ以テ二十六番ノ建議ニ決シ四番水本 成美五番東久世 通禎
 二十六番柴原 和委員ト爲ス然ルニ醫藥營業稅則及ヒ本案モ亦共ニ
 修正ニ付セシヲ以テ其報告ヲ待テ後更ニ開議スヘシ散會セヨ
 立午後第三時二十分閉場

元老院會議筆記明治十三年九月十五日

○第百九十九號議按酒造稅則布告按醫藥營業稅則布告按第二讀會
按自家飲料酒類製造定限布告按

九月十四日ノ續

議長 佐々木高行 代理

出席議員

- 三番 神田 孝平
- 四番 水本 成美
- 五番 東久世 通禎
- 八番 山口 尙芳
- 九番 黒田 清綱
- 十番 箕作 麟祥

十二番	楠本 正隆
十四番	河田 景與
十五番	安場 保和
十六番	細川潤次郎
十七番	伊丹 重賢
十九番	岩村 通俊
二十番	渡邊 驥
二十一番	鶴田 皓
二十四番	福羽 美靜
二十六番	柴原 和
二十七番	津田 眞道

午前第九時四十七分開場

内閣委員番外 大藏權大書記官 戸田 秋成

三十一番 玉乃 世履

三十二番 林 友幸

三十三番 渡邊 昇

○議長 本日ハ議長他ノ公務アルニ依リ本官代理ヲ爲シ第百九十
九號議按中替翹營業稅則布告按第二讀會ヲ開ク然ルニ本按ハ内
閣下附及修正ノ二按アリ慣例ニ遵ヒ修正按ヲ以テ問題ニ付スヘ
シ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

替翹營業稅則

第二章 免許鑑札 營業稅

第一條 釀造酒類ノもとヲ營業セント欲スル者製造受ハ其旨管廳ニ

願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

釀造製造營業稅 金五拾圓

釀造受賣營業稅 金三拾圓

○十二番楠本 正隆 本按ハ本官等ノ修正報告ニ係ルヲ以テ爰ニ聊カ主旨

ヲ略陳セン凡ソ釀造稅ノ事タルヤ初メテ明治六年ニ起リ中途之ヲ

廢シテ今更ニ復舊セルモノナリ即チ明治六年大藏省達第六十七號

ニ陸羽邊僻邑ニ於テ防寒ノ爲メ自飲ノ濁酒五升又ハ一斗位釀造致

シ候ニハ酒釀ヨリ釀成候テハ容易ニ無之ニ付釀造屋ト唱ヘ酒釀ノ

ミ釀造營業ノ者多ク有之右ノ者ヘハ清濁酒同様免許鑑札相渡稅金

ノ儀ハ清酒造ノ半減收稅致シ全自飲ノ濁酒聊釀造候者ハ免稅致シ

有之就テハ各府縣トモ右釀造營業ノ者有之候ハ、同様免許鑑札可

相渡ニ付可申立尤甘酒又ハ麴ノミ營業ノ者ハ追テ一般ノ稅則御確

定マテ申立ニ不及此段相達候事ト之レアリ由テ前會釀造ノ意義ヲ

問ヒシニ内閣委員ハ只酒もとトノミ答ヘタリ夫レ酒もとハ元來麴

ト水トヨリ成ル者ナレハ之ニ造石稅ヲ課スルハ決テ能ハサルコトナ

ルモ夫ノ酒麴ノ如キハ必ス之ヲ爲スヲ得ヘキモノナリ抑々原按ニ

ハ製造受賣共其課稅ヲ同ズスト雖モ他ノ營業ト比準ヲ取レハ實ニ

公平ヲ得サルモノアリ仍テ修正スルコト此ノ如シ

○十六番細川 潤 次郎 委員ノ修正猶未タ盡サ、ルモノアリ故ニ本官ハ原

按ト修正按ヲ折衷シテ更ニ釀造ノもとノ製造シテ營業セント欲

スル者ハ其旨管廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通
 納ムヘシ。舊翹營業稅金五拾圓ト修正セントス是レ兩按ノ長ヲ採リ
 短ヲ舍ル者ニシテ其主義亦大同小異ナリ蓋シ其小異ナル所即チ大
 ナル理由ノ存スル所ナリ抑々稅ヲ製造人ニ課シテ受賣人ニ及ハサ
 ルハ本官ノ主義ナリ管ニ本官ノ主義ナルノミナラス乃チ酒造稅則
 改正ノ主義ナリ若シ夫レ稅ヲ受賣人ニ課スルトセハ行商及製造家
 派出ノ賣子ニモ之ヲ覃及セサル可ラサルニ至ラン果シテ然ラハ嚮
 ニ酒類ノ受賣小賣ニ課稅セント同ク民間ノ苦情ヲ攪發スルノミナ
 ラス遂ニ逋稅ノ奸策ヲ媒シ隨テ良法モ徒法トナランコトヲ恐ル是ニ
 由テ本按モ酒造稅則ト其精神ヲ同シ單ニ製造家ニノミ課稅スヘキ
 者トナスヲ可トス

○十五番 安場保和 賛成

○議長 十六番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十三番 渡邊昇 十六番ヲ賛成ス蓋シ稅ノ平均ナラサル可ラサルハ

既ニ前會ニモ陳述セシ如ク今酒造稅則ニ受賣小賣ノ稅ヲ廢シ獨リ
 舊翹ニ其稅ヲ收ムルハ即チ稅ノ不平均ナリ仍テ十六番ヲ賛成シ尙
 本條中別ニ修正ヲ要スルノ點アルヲ以テ十六番ノ修正決着ノ上更
 ニ之ヲ提出スヘシ

○三十一番 玉乃世履 十六番ノ修正ハ原按ノ製造受賣ノ別ナクトアルヲ

附托委員ノ修正セシニ尙修正ノ舊翹受賣稅金三拾圓ヲ削除スルニ
 在ルカ

○十六番 細川潤次郎 更ニ朗讀セン第一條舊翹 釀造酒類 ヲ製造シテ營業

セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ
○八番^{山口} 贊成セント欲スルニ亦以テ疑點アリ其旨管廳ニ願出ノ

下ニ一個所毎ニノ五字ハ加ヘサルヤ且其精神ハ例ヘハ東京ニ本社ヲ置キ佐賀秋田ニ支社ヲ置クモ其免許稅ハ同ク五拾圓ナリヤ

○十六番^{細川潤太郎} 八番ノ問ニ答フルハ甚々之ヲ苦ム何トナレハ酒造稅則第一條ニ於テ本官ハ免許鑑札ヲ付與スルハ場所ニ在ラスシテ人ニアルヲ以テ一個所毎ニ「フ」字ヲ削ルヘシト主張シ八番ハ反對說ヲ主持シ終ニ原按ニ決セリ今八番ハ前意ニ由リテ之カ間ヲ發セシ

ナラン蓋シ此疑問ニ答フルハ內閣委員ニ辯明ヲ移サ、ル可ラスト雖モ既ニ機會ヲ失スルヲ以テ更ニ說ヲ爲サントス惟フニ本條ハ一

ケ所ノ字ナキニヨリ法律ノ裏面ヨリ見解ヲ下セハ場所ノ多少ヲ問ハサルモ其精神ハ酒造稅則第一條ト同一ナラン蓋シ法律ハ其主義ヲ二三ニスヘキ理ナキニヨレハナリ

○三十一番^{玉乃世履} 十六番ノ受賣稅ヲ廢スルノ修正ハ大ニ立按ノ旨ニ背ケリ何トナレハ製造人ト受賣人トハ其利益ノ減スルニ從ヒ亦其稅ノ減セサルヲ得サル者ナレハ受賣人ノ稅ヲ出スハ即チ間稅ニシ

テ其實製造人之ヲ出ス者ナリ然ルニ原按製造人受賣人共ニ五拾圓ヲ出スノ規則ナレハ之ヲ比例スレハ即製造人百圓ヲ出スノ理ナリ修正委員ノ報告按ハ既ニ受賣稅ヨリ二拾圓ヲ減シテ之ヲ三拾圓ト

ナセシニ又更ニ三拾圓ヲ廢スルニ至レハ遂ニ製造稅ヲ半減スルノ理ニシテ本按ノ精神ハ全ク崩壞セン故ニ本官ハ之ヲ贊成スルヲ能

ハサルナリ蓋シ製造人受賣人ニ稅ヲ課スルハ多ク米ヲシテ糜セシメサルカ爲メナリ若シ米ヲ糜スル者ニ課稅スルヤト問ヘハ乃チ有害無益ノ物ニ貴重ノ食料ヲ費シ其レヲシテ高價ナラシムルカ爲ナリ能ク本按ヲ分析スルヒハ前陳ノ理由ハ必ス釋然タラン修正ハ不可ナリ

○二十六番柴原和 本條ハ自家飲料ヲ制スルノ法按ナレハ受賣稅ハ之ヲ廢スルヲ要セス蓋シ酒類ニ受賣小賣稅ヲ廢スルハ僻邑邊陲ニ不便少カラサルヲ以テナリ此事ニ就テハ本官職ニ地方ニ在ルノ日意見ヲ大藏卿ニ呈セシコアリ當時ハ之ヲ採用スル所ナラサリシモ今日既ニ公論トナリテ之ヲ廢スルニ至レリ然レモ東京ノ待合船宿業等ニ其小賣稅ヲ課スルカ如キハ乃チ之ヲ府會ノ決議ニ任シテ可ナ

リ要スルニ本接受賣稅ヲ廢スルハ帝ニ政府增稅ノ目的ニ背クノミナラス奢侈物ニ重稅ヲ課スルハ世ノ保護ナレハナリ

○十五番安場保和 二十六番ハ請賣小賣稅ノ事ハ之ヲ府會ノ決議ニ任スルモ可ナリト論スレモ本按ハ則チ國稅ナリ豈地方稅ニ關センヤ且酒類ノ受賣小賣ニ於テ其不便アルヲ知ラハ醬麴又何ソ之ヲ擇ハンヤ若シ二十六番等ノ說ノ如クセハ世ノ奸商輩ハ種々ノ口實ヲ仮リテ逋稅ノ道ヲ求メ令遂ニ行ナハレサルニ至ラン

○八番山口尙芳 十六番ヲ賛成ス但字句ハ第三讀會ヲ俟テ更ニ修正センノミ修正委員ノ報告按ニ受賣稅ノ目アリ抑々受賣トハ其物品ヲ多少製造人ヨリ買受ケ之ヲ賣ル者ナラン既ニ買受ケテ賣ル者ヲ受賣ト云ハ、其賣額ノ多少ハ行商居費何ソ擇ハン此意ヲ擴充セハ僅ニ

一擔石ヲ賣ル者モ五拾圓ノ税金ヲ取メサル可ラス是レ獨リ苛刻ナルノミナラス酒造税則ニモ背馳シ間税ヲ廢シテ直税ト爲スモノナリ惟フニ直税ノ人心ニ感スルノ深厚ナルハ固ヨリ各位ノ知ル所ナラン然ラハ則チ同按中ニ法律其主義ヲ二三ニシ一ハ直税トナシ一ハ間税ト爲スハ何ノ理由ナリヤ若シ夫レ切ニ受賣人ニ課税セント欲スルノ意ナラハ寧ロ造石税ヲ課スルヲ可トス况ヤ受賣ノ字義タル慢然區域ナキ者ナレハ世人ハ必ス政府ハ何ノ爲ニ受賣ノ字ヲ下スヤヲ咎ムルノ恐アルヲヤ

○十六番 細川潤次郎 三十一番ハ蕎麥ハ米ヲ糜スル者ニシテ天下ノ大經濟ニ關スルニ由リ多税ヲ課スルモ不可ナシト説ケリ此論ヤ從來五州ノ通論ニシテ本邦幕政ノ間野中謙山等モ大ニ之ヲ主張セシト雖

モ今ニシテ之ヲ見レハ論旨業已ニ陳腐ニ屬セリ夫レ目下米價高貴ノ原因ヲ繹ヌルニ輸出入ノ不平均紙幣ノ落價及ヒ人民日一日ヨリ奢侈ニ赴キ米ヲ常食スル者ノ多キ米ヲ海外ニ輸出スルモノ夥シキ等其因枚舉ニ遑アラサルナリ今若シ酒類ヲ一切禁斷セハ或ハ可ナルモ苟モ然ラスシテ徒ニ蕎麥受賣ニ課税スルモ決シテ其影響ナキヲ知ル況ヤ内閣ノ意モ多ク酒税ニ在リテ蕎麥ニアラサルヲヤ若シ内閣ノ意蕎麥ニアラハ何ソ之ニ造石税ヲ課セサルヤ到底受賣税ノ取舍ヲ以テ全國ノ經濟ヲ説クハ或ハ不經タルヲ免レサラン又二十六番ハ蕎麥受賣ニ課税セザレハ増税ノ目的ニ背クト論スレモ本按既ニ造酒家ノ自造ニ掛ル蕎麥ニ課税セサルヲ見レハ修正ノ意必スシモ起草ノ目的ニ背クニアラサルヲ知ルヘシ

○三十一番^{玉乃}世履 十六番ハ本官カ説ヲ評シテ陳腐ナリト駁スレト是レ決シテ然ラス試ニ見ヨ今日米價ノ騰貴ハ極點ニ達スルニ方リ酒ヲ飲ンテ飢ヲ忍フ者アリヤ飢ヲ凌テ酒ヲ忍フ者アリヤ是レ言ハスシテ其關係ヲ判然セシムヘシ夫レ這般酒稅規則ノ改正タル其意自カラ米價ノ騰貴ヲ救フノ一ニ居レリ之ヲ病者ニ譬ヘンニ同ク是病ナリト雖モ其原因ヲ尋ヌレハ亦種々ノ併合ヨリ成ル今之ヲ療スルハ例ヘハ糸ヲ治ムルト同ク先ツ其一原素タル緒ヲ治メ漸次ニ之ヲ救ハサル可ラス米價ヲシテ低價ナラシムルモ其病原ハ酒ニ在リ若シ酒ヲ治メスンハ其全部ノ快復ヲ願フハ所謂木ニ縁テ魚ヲ求ムルカ如シ又酒ヲ嚴禁スルノ精神トセハ或ハ可ナラントノ論アリ其然リ實ニ之ヲ禁斷スルノ精神ナリ例ヘハ彼ノ阿片ノ如シ元來是レ毒

物ナルヲ以テ我邦之ヲ嚴禁スルモ支那ハ猶之ヲ默許シテ到處我カ酒ヲ飲テ勞ヲ慰スルト一般ノ弊風ヲナセリ今酒ト飯トハ孰レカ阿片ニ類スル乎ト問ヘハ其酒ナルヤ間ハスシテ知ル可シ是等ノ理由ナルヲ以テ其受賣人ニ至ル迄悉皆稅ヲ課スルハ即チ其製造人阿片ニ似タル毒物ヲ製造賣販スルヲ以テ彼ノ遊女ノ制ト同ク有害無益ノ者ハ不得止之ヲ營業セシムルモ其實漸次衰滅ニ就カシムルノ精神ニアリ誰レカ米ヲ全國ノ大經濟ニ關セスト云フヤ

○十番^{箕作麟祥} 十六番述フル所ノ精神ハ之ヲ首肯セサルモ其修正ノ文字ニ至テハ切ニ賛成ス夫レ酒造場ハ一ヶ所トシテ明了ニ之ヲ示シ本按ハ一期トアリテ箇所ノ事ナシ元來免許ハ人ニ與フル者ニシテ場所ニ與ヘサル者ナルコトハ本官之ヲ確信ス惟フニ從前酒類ハ一種

拾圓ニシテ改正ハ壹箇所五十圓タリ是レ内閣委員ノ言ノ如ク前後ノ關係アルニヨリ場所ニ與ヘスシテ人ニ與ヘハ或ハ増税ノ主義ニ戻ル可シト雖モ蓄麴ニ至テハ全ク之ト異ナリ現ニ十二番ノ朗讀セシ文中ニアルカ如ク明治六年ニ半分ヲ取り爾後無税ナル者ニ今更メテ徵税スルヲ以テ税額ノ増減ヲ生スルノ理ナシ但本按一ヶ所ノ文字ナキニヨリ一入一免許鑑札ヲ得テ或ハ奥羽全部ニ製造場ヲ開クモノアルモ知ル可ラスト雖モ是レ止ムヲ得サルナリ

○議長 十六番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ十六番ノ修正ニ決ス時已ニ午ヲ過ク一旦散會セヨ

午後零時二十分閉場

午後第一時開場

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク

○川三番渡邊昇 本按醸造酒類云々ノ脚註ハ不可ナリ修正委員ノ説ヲ聽クニ蓄麴ハ清酒ノもとニ限ルカ如シ果シテ然ラハ判然清酒ノもとト記スヘシ否ラスンハ濁酒ノもとモ亦之ニ容ルモノト誤解スルノ恐レアリ仍テ醸造酒類云々ハ清酒ノもとト修正スルヲ可トス

○廿七番津田眞道 賛成

○議長 川三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○番一戸田秋成 外 川三番ノ修正ハ蓋シ蓄麴ノ意義ヲ謬ルニ起因セリ何

トナレハ醬麴ハ獨リ清酒ノもとノミニ非ス清濁ノもとモ併セテ之ヲ言フ即チ清酒ノもとヲ乾元カラシメトト稱シ濁酒ノもとヲ腐元クサレセトト稱シ兩者共ニ醬麴製造家ニ於テ製セリ故ニ本按ニ釀造酒類云々ト類ノ字アルハ是醬麴ニ清濁二種アルカ爲メナリ但腐元ハ其購求者多カラサルニ依リ醬麴製造家ト雖モ常ニ之ヲ造リ以テ其需用者ヲ埃ツニ非ス會マ人ノ依頼ニ應シテ之ヲ造ルモノタルノミ

○三十三番渡邊 内閣委員ハカラシモトクサレモトノ兩種共ニ醬麴製造家ニ於テ販賣スト云ト雖モ九州地方ノ如キハ麴屋ニテクサレモトヲ販賣スル者アリ是等ハ味噌醬油ノもとト類別シテ課税スルカ其繁雜言フ可ラス若シ夫レ此ノ如クンハ本按ハ益々修正セサルヲ得サルナリ

○外一番戸田 麴ヲ探偵調査シテ之ニ課税スルニ非ス自釀家等ノ委

○托ニ依リ麴屋ニテクサレモトヲ造ルハ税ヲ付セス只醬麴營業者ニ課税スルニ在ルナリ

○三十三番渡邊 内閣委員ノ説ノ如クンハ麴屋ニテ人ノ委托ヲ受ケクサレモトヲ造ルハ無税ニシテ醬麴製造者ノ之ヲ造ルハ税アリト云フカ如シ豈偏頗ノ法律ナラスヤ此ノ如クハ本官ハ愈々前説ヲ固クセリ

○議長 川三番ノ修正説ニ同意者ハ起立セヨ 營業者ハ前ニ聲明ハシ起立者三人

○議長 少數ナルニ依リ三十三番ノ修正ハ消滅ス以下條項簡單ナルヲ以テ適宜ニ三四々條ヲ連帶シテ決議ニ付ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

○十五番 安場保和 第四條「毎年十月中」ノ五字ヲ削除ス

○十番 箕作麟祥 賛成

○議長 十五番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○八番 山口尚芳 十五番ノ修正ハ一理アルモ尙未タ盡クハル所アリ何ト

ナレハ本按ノ精神ハ何時其届出ヲ爲スモ可ナリト言フニ非ス蓋シ

其期限迄ニ其届出ヲ爲シシメ以テ石數調査ノ便ニ供セントスルニ

在ルニミ然レモ本按ノ如クハ新規營業者ニ對シテ恐ラクハ不都合

合アラシク例ヘハ一月ニ免許ヲ受ル者等ニ至リテハ其届出ヲ如何シ

テ可ナラン是十五番ノ動議因テ起ル所以ナルヘシ然レモ其說ニ從

ヘハ又何時其届出ヲ爲スモ可ナルカ如シ故ニ本官ハ本按起草ノ旨

趣ト十五番修正ノ精神ヲ折取シ本按ニ但書ヲ添加シテ但新規免

許ヲ受ル者ハ其時々届出ヘシトセシトス猶十五番修正消滅スル如

クハ更ニ之ヲ辯セン 其細ハ届出ノ旨ニ用書ニ載ル所ニ依リ

○十五番 安場保和 本官ノ旨趣ハ八番ノ修正說ト異ナルニ非ス故ニ其說

ノ如クナルモ敢テ異議ナシトス

○十六番細川潤次郎 本官ハ猶少ク異存アリ既ニ見込ノ石數トアラハ或

ハ其増減アルヘシ故ニ酒造稅則第廿五條但書ノ精神ト其文例トニ
則トリ但石數ノ増減ハ其時々届出ヘシトノ但書ヲ加ヘ仍本文ナル

其一期中ヲ其節云々見込ノ石數毎年云々ヲ見込ノ石數ヲ管廳云
々ニ作ラントス仍テ目下ノ問題ニハ不同意ナリト以テ

○十番眞作 麟祥 本官ハ十五番ノ修正說ニ同意セシト雖モ猶八番十六番
ノ修正說等漸次明備ヲ盡セルヲ以テ敢テ前說ヲ固執セサルナリ

○卅一番玉乃 世履 本官ハ第三條ニ係リ修正說アルニ依リ目下ノ問題決
議ニ至ルヲ踈テ之ヲ辯セントス乃チ例ニ從ヒ預シメ一言スハ不附

○議長 十五番ノ修正說ニ同意者ハ起立セヨ
起立者二人

○議長 少數ナルニ依リ十五番ノ修正說ハ消滅ス

○卅一番玉乃 世履 第三條「一期中何月」ヲ何時トスルヲ可トス何トナレハ
第二條「十月一日ヨリ云々九月三十日迄」ヲ以テ一期トストアリ又

第四條「毎年十月中云々」トアリ十月中ニ石數ヲ届出ントセハ新々
ニ免許ヲ受ルハ十月前ニアラサレハ不都合ナルヘシ然ルニ本條ニ

ハ「何月ニ新規免許云々」トアルヲ以テ十月ニ之ヲ受ルモ猶妨ケナキ
カ如シ故ニ「何月」ヲ何時ニ改作ス可シ

○議長 卅一番ノ修正說ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○八番山口 尙芳 本官ハ前ニ陳述シタル旨趣ニ依リ本條ニ但新規免許ヲ
受ル者ハ其時々届出ヘシトノ但書ヲ加ヘ仍ホ且本文届出ノ下ヘシ
ノ二字ヲ削除シ之ニ填スルニ其石數ノ増減ハ其時々届出ヘシト

十四字ヲ以テセントス此ノ如クモハ届出ノ文字重複スルニ由リ或ハ別ニ一條ヲ設置スルモ可ナルカ如シト雖モ一條中ニ包括セハ更ニ簡便ナリト思考スルヲ以テ此ニ修正ヲ提出スルコト爾後議決セ

○議長 八番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○十六番 細川潤次郎 本官ハ八番下其旨趣同一ナレモ文字上違フ所アリ

テ之ヲ賛成スルコト能ハサリシ乃其本文其一期中其節云々見込ノ石數毎年云々ヲ見込ノ石數ヲ管廳云々ヲ作リ且但書ヲ加ヘテ石數ノ増減ハ其時々届出ヘシニ作ラセテ其理由ハ前ニ陳述シ後ル

ヲ以テ此ニ賛成ス

○十七番 伊丹重賢 賛成

○廿四番 福羽美静 賛成

○議長 十六番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○八番 山口尙芳 十六番ノ修正ハ毎年十月中ノ五字ヲ削除シ其届出ニ期

限ヲ設ケサルカ如シ敢テ其故ヲ問フ

○十六番 細川潤次郎 酒造稅則第廿五條ニ免許ヲ受タル者ハ其節云々ト

アリ乃チ彼ニ則トリ本按一期中ト五字ヲ節又一字ニ改作スルニ因テ毎年十月中ノ五字ヲ削除シ之ニヲ字ヲ填入セタルナリ敢テ期限ヲ設ケサルニ非サルナリ

○八番 山口尙芳 十六番ノ修正説ハ本官ノ前説ヲ善美ニシ毫モ間然スヘ

キナシ仍テ之ヲ賛成ス

○議長 十六番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

○議員 全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ十六番ノ修正ニ決シ更ニ第二第三條本
按ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルニ依リ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏

ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ検査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出

シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳

ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立セヨ

○議長 全會一致ナルニ依リ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ舊賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑

札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 罰令

第九條 免許鑑札ヲ受ケス舊賣ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業

稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記

ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシ壹圓ヨリ少ナカラス

五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ

○十六番細川潤次郎此ニ一條ヲ増補セントス酒造稅則第廿三條ニ免許

鑑札ハ貸借スルヲ許サストアリ彼已ニ然レハ舊廻營業免許鑑札ト

雖モ亦然ラサルヲ得ス而シテ本按若シ此條ヲ掲ケスンハ人民ノ其

鑑札ヲ貸借スルモノアルモ因テ罰スヘキ途ナシトス故ニ該全文ヲ

移シ來リテ之ヲ第九條トシ第二章ノ甫メニ填入シ現今ノ第九條ヲ

第十條其第十條ヲ第十一條ト改メ且本條ハ酒造稅則ニ於ル如ク禁

令ノ部ニ入ルヘキモノナル以テ此第二章罰令ノ上ニ禁令ノ二字

ヲ加フル可トスニ對シ本對ニ與ス

○卅二番林友幸賛成

○議長 十六番ニ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十番箕作誠祥 十六番ニ間フ免許鑑札貸借云々ノ一條ヲ増補スルハ固

ヨリ不可ナシト雖モ酒造稅則ニハ第三十條アリテ鑑札ヲ借受ク又

ハ之ヲ貸與セル者ヲ罰スルヲ法ヲ示シ前ノ第廿三條ト相照應セリ

然ルニ此ニ其貸借云々ノ一條ヲ掲ケ而シテ其罰令ノ明文ヲ載セサ

ルハ稍足ラサル所アルカ如シ知ラス十六番修正ノ意ハ果シテ何

ニ在ルヤ言ヘテハ十六番ノ對シ五ニ増シ十ニ減シ十一ニ減

○十六番細川潤次郎 十番ノ質疑ニ答ヘン原來本規則ハ酒造稅則ノ精且

密ナルカ如クナラス彼ニハ造石稅アレト此ニハ之ナキ等其權衡モ

亦相同シカラス然レト已ニ此禁令アレハ固ヨリ其罰令ナカル可ラ

ス乃チ本按第十條ニ其他ニ違犯云々トアルヲ以テ該條ニ間ヒ其罰

ヲ課スル是レ本官ノ意見ナリ則來本對ハ舊廻營業免許鑑札トハ其文

○卅一番玉乃世履 十六番ヲ賛成ス原來本按ハ酒造稅則ニ比スレハ其文

モ簡略ニシテ其法モ亦嚴ナラサルコ多シ乃チ目下十番ノ質疑ノ如

キモ罰法ハ十六番ノ説ノ如ク第十條ニ據テ處分シテ可ナリトス

○議長 十六番ノ修正説ニ同意者ハ起立セヨ

○十六番 全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ十六番ノ修正ニ決シ更ニ第十條十一條

ニ同意ノ者ハ起立セヨ

○議長 全會一致ナルニ依リ本按ニ決ス

○外番戸田秋成 引續自家飲料酒類云々ノ第二讀會ヲ開カレシコトヲ企

望ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意者ハ起立セヨ

起立者一人

○議長 少數ナルニ依リ内閣委員ノ請求ハ消滅シ明日午前第九時ヨ

リ自家飲料酒類製造定限布告按ノ第二讀會ヲ開クヘシ散會セヨ

午後第二時三十五分閉場

十三番 福岡 孝弟
 十四番 河田 景與
 十五番 安場 保和
 十六番 細川潤次郎
 十七番 伊丹重賢
 十九番 岩村 通俊
 出納委員二十番 渡邊 驥
 廿二番 大給 恒
 廿六番 柴原 和
 廿七番 津田 眞道
 大久保一翁

廿九番 伊集院兼寛
 卅二番 林 友幸
 卅三番 渡邊 昇
 内閣委員 一番 大藏權大書記官 戸田 秋成

○議長 本日ハ議長他ノ公事アルニヨリ本官代理ヲナシ第百九十九
 號議按中自家飲料酒類製造定限布告案修正報告案ノ第二讀會ヲ開
 ク各位例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス
 自家飲料酒類製造定限布告按修正

附則

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スル者ハ一ケ
年三石各種製造スルトキハ其總數ヲ合算スニ超ヘカラス若シ三石ヲ超ルトキハ其酒
類ヲ沒收シ三拾圓ヨリ少カラス六拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

ヘシ

○廿六番柴原和

本官ハ修正委員タルヲ以テ一應改刪ノ理由ヲ述ン或
論者ハ本按ヲ以テ直ニ酒造稅則中ニ編入スヘシトノ議アリ然ルニ
既ニ前會ニ於テ十六番ノ陳述セシ如ク其單行ヲ須ヒサルハ固ヨリ
然リト雖モ之ヲ本則中ニ編入スルハ亦穩妥ナラス如カス酒造稅則
ノ附則トナスノ適當ナルニハ乃チ本官等カ之ヲ附則トナシテ報告
セシ所以ナリ蓋シ原按ニ摠テ酒造營業者ヲ以テ論スヘシトアルハ
是ナラス然ラハ則チ其違犯者ハ之ヲ本則ニ從フヘシト爲サンカ是

亦然ラサルモノアリ何ソヤ若シ本則ニ從フヘシト爲サハ營業免許
鑑札及造石稅ヲモ徵課セサルヘカラサレハナリ今本按ニ其酒類ヲ
沒收シ三十圓ヨリ少カラス六十圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科スヘ
シトセシハ乃チ本則第廿七條ニ照準セント欲シテナリ蓋シ三十圓
ハ免許鑑札ニシテ六十圓ハ其二倍ノ罰金トス論者或ハ言ハン其罰
ヤ輕ニ過クルヲ如何ト是亦決シテ然ラサルナリ既ニ其酒類ヲ沒收
シ而シテ更ニ罰金ヲ科ス何ノ輕キカ之レアラシク然レモ尙進シテ器
械ヲ併セテ沒收セサルモノハ乃チ苛酷ナリトノ誹リヲ免レンカ爲
メナリ且ヤ一石ヲ三石ト修正セシハ或ハ酒造家ノ專賣權ヲ殺クニ
似タリト雖モ前會ニモ該石數ニ就テ多ク議論ヲ紛出セシモ亦其少
ニ過ルヲ徵スルニ足ルヘシ惟フニ原案一石ト定限ヲ立テシハ慣習

ノ久シキ條然禁止スルニ忍ヒサルノ情實ヨリ成レルモノナリ既ニ
 情實ヨリ成レルモノトセハ之ヲ擴充シテ三石ト爲スモ肯テ不可ナ
 キヲ信スルハナリ
 ○八番山口 本按ハ不是ナリ抑々原按ヲ穩當ナラスト爲スハ其單行
 律タルヲ以テナリ敢テ石數定限ノ如何ニ由ルニ非ス然ルニ修正委
 員ハ今定限ノ石數ヲ更メテ三石トセリ是寔ニ要用ナリト爲サス管
 ニ不用ナルノミナラス又以テ酒造稅則制定ノ精神ニ背馳スルモ
 ノト言ハサルハカラス蓋シ今回酒ニ重稅ヲ課スルハ一ハ以テ政府
 財政ヲ救濟スルカ爲メニシ一ハ其有害無益ナルカ爲メニスルナリ
 既片シテ此稅ヲ課スルハ又之カ保護ナカルヘカラスト爲スハ該稅
 則ノ精神ニシテ酒造家ニ專賣營業ヲ許ス所以ナリ但夫ノ農家等ニ

在テハ自家飲料ノ爲メ酒ヲ釀造スルハ古今ノ常ナリ然ルニ今忽カ
 ニ之ヲ嚴禁シ一勾ノ自釀ヲモ許サストナスハ誠ニ忍ヒサルモノア
 リ依テ特ニ仁慈ヲ以テ石數ヲ限リ其釀造ヲ許サントナスハ乃チ原
 按ノ主趣ニシテ其制限ヲ一石ト定メタルハ蓋シ全國ヲ通シテ其石
 數中人ノ容量額ナルヲ以テナリ論者或ハ言フ既ニ一石ヲ允ス三石
 何ソ許スヘカラサテシヤト是決シテ否ラス其富者ニ在テハ二石若
 クハ三石ト雖モ猶不足ト爲スヘキモ此ノ如キハ其數實ニ少ナシ今
 其少ナキモノヲ以テ多キモノノ標準ト爲スハ豈法ヲ立ルノ途ナラ
 ヲヤ若シ論者ノ言ノ如クセハ其止ムヲ得スシテ自家飲料ヲ許スノ
 主趣ニ戻リ却テ之ヲ勸奨スルモノト云ハサルヲ得ス是レ本官カ本
 按ヲ目シテ酒造稅則ノ精神ニ背馳スト云フ所以ナリ

○外二番戸田

茲ニ修正按ヲ見ルニ一石ヲ三石トシ罰文モ亦改刪セ

リ是皆不完全ノ者ナルヲ以テ一々之ヲ辯駁セサル可ラス夫レ三石
ノ説ハ曾テ十二番ノ發論ニ係リ既ニ問題トナリシモ遂ニ消滅セシ
モ又ニシテ再ヒ之ヲ議場ニ上スヘカラサルモノトス夫ノ歐米各國
ニ於テモ斯ル成規ノ決シテ之アラサルヲ信スト雖モ既ニ議場ノ間
題タル上ハ到底之ヲ論破セサルヲ得ス蓋シ三石ノ不可ナル所以ハ
遠ク其理ヲ求ムルヲ要セス則チ酒造稅則ノ精神ヲ明了シ既ニ之ヲ
可認セハ毫モ異議ナキノ理ナリ何トナレハ本案全体ノ原則ハ皆一
石ヲ以テ限リトセリ然ルニ其原則タル稅則ハ之ヲ認可シテ獨リ自
家飲料ノミ可認スヘカラストナスハ何ノ理由ナリヤ試ニ思ヘ目下
改正ノ稅則ニ於レハ清酒濁酒共ニ格別ノ增稅ヲナセシニ只自家釀

造ノミニ三倍ノ寬裕ヲ與ヘントスルハ更ニ其趣向ヲ知ラサルナリ蓋

シ酒稅ヲ增加セハ酒價モ亦昂貴セサルヘカラスト酒價既ニ昂貴セハ

自家釀造ノ數増加スルニ至ルヤ自然ノ理勢ナリ是レ前年一圓ノ酒

稅ヲ定メシ時ニ方リ著シク自釀ヲ倍徒セシヲ以テ明証ト爲スニ足

ラシ苟モ增稅ノ目的ヲ達セントセハ嚴ニ自家釀造ヲ制止セサルヲ

一得ス乃チ營業ト自釀トハ自カラ痛痒相關スルモノナレハナリ但我

今日ノ景況ヲ洞觀セハ斷然舊習ヲ斥ケテ之ヲ禁止スルニ忍ヒサル

モノアリ仍テ其制限ヲ壹石ト定ムルハ所謂中正至當ナリト確信セ

ル若シ夫レ之ヲ三石トシ一日始ト一升ノ比例ニ至ラハ酒造規則ハ

寧ロ徒法タルニ過ス又罰則ニ六十圓トアルハ本則第二十九條ナル

稅額ニ二倍セント有意ナルヘシト雖モ彼ハ既ニ酒類沒收ノ事アリ

自家醸造ニ至テハ其犯則發覺ノ時既ニ其料ヲ飲了セハ將タ如何ス
ヘキ此ノ如キハ決シテ其取締ヲ立ヘカヲサルナリ之ヲ要スルニ本
按ノ如キハ全ク無用ノ修正タレハ斷然之ヲ廢滅スルニ如カサルナ
リ

○廿六番 樂原和

内閣委員ハ一旦消滅セシ石數ハ再起スルヲ得ズト駁
スト雖モ本官固ヨリ之ヲ了知セサルコト然レモ前會ニ於テ
二番ノ一石ヲ三石ト爲スノ動議ハ本官乃チ之ニ同意スト雖モ他ニ
不是ト認ムルモノアルヲ以テ全体ニ左袒セサリシ然ルニ其説已ニ
消滅シテ後更ニ本官ノ異見ヲ陳ヘ以テ特別ノ建議ヲナシ十六番モ
亦賛成モリ然レハ則チ此修正案ハ十二番ノ説ニ似テ非ナルモノナ
リ決シテ消滅ノ議ヲ再發セシムアラズニ其趣向ヲ限ラセヨ

○十二番 補本 正隆

原來自家飲料ニ稅ヲ課スルハ本官ノ最モ不可トナス
所チ然レモ亦已ムヲ得サルノ情義アルヲ察シ前會既ニ之ヲ三石
ト修正セシモ不幸ニシテ其説遂ニ消滅セリ今委員ノ修正ヲ閱スル
ニ適マ本官ノ心ヲ得タルヲ以テ大ニ之ヲ賛成ス何トナレハ本則ヲ
以テ斷然自釀ノ禁ヲ立ルモノトセバ敢テ之ヲ問ハス苟モ之ヲ許ス
ニ於テハ三石或ハ五石トスルモ何ノ妨ケアラシ全體人民自ラ酒ヲ
造リ自ラ之ヲ飲ムモノニ對シ稅ヲ課スルカ如キハ政府ニシテ無用
ノ干涉ト云フヘシ若シ原按ノ如クシハ假ヒ一石ヲ許スト云モ其實
飲酒ヲ禁スルト一般ニシテ本官素ヨリ其可ヲ知ラス故ニ寧ロ三石
トシテ聊カ自由ヲ與エントスルナリ

○外一番 戸田 秋成

十二番ノ本案ヲ賛成スルハ乃チ前日ノ發議者ナレハ

○素ヨリ怪ムニ足ラヌ其石數ノ不可ナルハ既ニ陳辯セシヲ以テ更ニ喋々セス只本按ニ罰金六十圓トセシハ第廿九條ノ稅額ヲ二倍シタルモノトセハ其語病如何ハ之ヲ咎メサルモ原按ノ旨意ハ制限ヲ過タル時ハ乃チ營業者ト一般ニ見做スト云フニ過キス然ルニ本按ハ沒收シ云ヤトアルモ既ニ其釀料ヲ消盡シタル時ニ方リ之ヲ處分スルハ將タ何ニ由ラントスルヤ但第廿九條ニハ但書ヲ添テ其處分法ヲ詳ニスルモ本按ハ又之ヲ須ヒス豈不完全ナル法按ナラスヤ

○十五番安場保和自家ノ飲料ニ至ルマテ太政大臣ヨリ單行ノ布告ヲ以テ之ヲ取締ルハ大ニ干涉ニ過ルノ嫌ヒアルヲ以テ本按ハ如ク修正セシモノナルヘシト雖モ能ク之ヲ熟考スルニ寧ロ依然トシテ太政大臣ノ布告ト爲スヲ可トス何トナレハ酒造稅則ノ如キハ專ラ釀造

家ニ必用ノモノナルモ敢テ一般人民ニ適實ナラス然ルニ其適實ナラサル法令ノ附則トシテ之ヲ頒布セハ人民或ハ之ヲ輕々ニ看過シ恐クハ自釀ノ規則ヲ知ラサルニ坐スルアラシ抑現今ノ人民タル其一般ノ布告ヲ周知スルモノハ極テ稀ナリ故ニ本按ノ如キハ一層鄭重ヲ加ヘ單行ノ布告トシ能ク觸目セシムルヲ最モ緊要ノ事トスル

○大番大田本官ハ酒造ノ一否ニ對スルモノ同ク其別ハ三番

○議長 十五番ノ說ハ贊成者ナキヲ以テ消滅ス

○卅三番渡邊昇本按若以下ハ罰例ナルモ之ヲ實際ニ徵セハ大ニ障礙アルヲ覺フ仍テ本官ハ制限外ニ釀造セント欲スルモノハ都テ營業者ト同一視スルヲ法ニオサントス乃チ酒類云々以下ヲ削除シ代フルニ總テ本則ニ從フヘシト爲ントス何トナレハ夫ハ寒國ノ如キハ

自家ニテ幾百石ヲ醸造セント欲スルモノハ其營業規則ニ從ハシメテ毫モ妨ケナク則チ之カ便利ヲ與フルモノナリ又或説ニ三石ヲ以テ可トスト云フト雖モ本官ハ亦其多キニ過ルヲ覺フ故ニ其中庸ヲ撰ミ之ヲ二石トセハ大ニ適當ヲ得ヘシ

○議長 卅三番ノ説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○十六番細川潤次郎 本官ハ原按ノ一石ニ復スルヲ可トス其他ハ卅三番ノ所見ト大差ナシ蓋シ増稅ハ素ヨリ欲セサル所ナレモ酒造管理ノ爲メ且財政ノ困難ニ際シ之カ増稅ヲ徵スルモ亦己ムヲ得サルモノナルヲ奈何セン仍テ之カ爲メ其中正不偏ノ制限ヲ擇メハ乃チ原按ノ如ク之ヲ一石トナスヲ適當トス然レモ之ヲ單行ノ布告トスルハ穩妥ナラス修正按モ亦不備ナルヲ免カレサルヲ以テ其酒類以下本

按ノ文ヲ刪リ酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノ爲メ酒類ヲ製造スル者ハ一ケ年一石各種製造スルキハニ超ヘカラス若シ一石ヲ超ル時ハ總テ本則ニ從フ可シト修正セントス此ノ如ク修正セハタトヒ名ハ附則ナルモ全ク罰則ヲ主トスル單行法律ナリ若シ之ヲシモ不可ナリトセハ寧ロ十五番ノ説ノ如ク太政大臣署名シテ以テ天下ニ公布スルヲ優レサトス故ニ本官ハ自カラ信ス本修正ノ如キハ附則ノ名アリテ其實稅則ニ相離レス始テ渾成ナルモノナラント

○廿二番太給 賛成ハ意圖マ要スルモノニテ本日本日

○議長 廿六番ノ説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○八番山口芳 賛成

○一番補田英世 賛成

○議長 十六番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○起立者十八人

○議長 半数ナルニ由リ議長之ヲ判決シ即チ十六番ノ修正ニ決ス

○外一番戸田秋成 本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ例規ニ拘ハラヌ本日午後

引續第三讀會ヲ開カレシコトヲ希望ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意シ者ハ起立セヨ

○起立者五人

○議長 少数ナルニ依リ内閣委員ノ請求ハ消滅ス

○外一番戸田秋成 定規ニヨレハ第三讀會ハ第二讀會ヨリ二日間ヲ隔ツ

ヘキナレト前陳フ如ク本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ明日直ニ開場ヲ

ランコトヲ企望ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ應シ明日第三讀會ヲ開クニ同意ノ者ハ起

立セヨ

○起立者十七人

○議長 多数ナルニヨリ明日第三讀會ヲ開クヘシ散會セヨ

午後零時第二十分閉場

平野春樹第二十分開議

○議員 多岐七ノミヨリ 開口第三議會ヲ開クハシテ議會ヲ

設立スルナリ

立止

○議員 内閣委員ノ請求ニ應ジ 開口第三議會ヲ開クニ同意ス者ハ該

元老院會議筆記明治十三年九月十七日

○第百九十九號議按

酒造稅則布告按 營業稅則布告 第三讀會
按 自家飲料酒類製造 定限布告按

議長 佐々木高行

出席議官

十番 楠田 英世

三番 神田 孝平

四番 水本 成美

五番 東久世 通禧

六番 本田 親雄

八番 山口 尙芳

九番 黑田 清綱

十番	箕作 麟祥
十一番	楠本 正隆
十二番	福岡 孝悌
十三番	河田 景與
十四番	安場 保和
十五番	細川 潤次郎
十六番	伊丹 重賢
十七番	渡邊 驥
出陣新官二十番	鶴田 皓
廿一番	大給 恒
廿二番	福羽 美靜

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

廿三番	渡邊 昇
廿四番	林 友幸
廿五番	玉乃 世履
廿六番	伊集院 兼寛
廿七番	大久保 一翁
廿八番	柴原 榮和
廿九番	津田 本真道
三十番	津田 本真道

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

○議長本日の議案内閣委員一番外大藏權大書記官戸田 秋成

類考書記官

森山

開左

按ヲ朗讀ス

類考

類考

類考

類考

類考

類考

類考

○類考布告按ハ類考出ノ公報ニテ大抵ニ於本官外野ノ類考此十此類

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅

則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事大書頭官岡田 林

世三番

野島 保良

酒造稅則

世二番

林田 文幸

第一章

免許鑑札 稅率

世一番

野島 世三

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願

出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ 大八附一

○八番

山口 尙勞

布告按ノ題號ニ酒造稅則トアリ然ル日本規則ハ一般造

酒營業ノ手續ヲ示スモノニシテ則チ第一條ニ於其營業ヲ爲サント

○セハ免許鑑札ヲ受クヘキコヲ掲ケ第二條ニハ酒ノ種類ヲ分ケテ其

製造シ得ルモノヲ載スルカ如ク廣ク酒造ノ順序ヲ述ヘ獨リ稅ノ事

ノミニ止ラサルナリ然ルニ單ニ稅則トセハ名實自カラ相副ハザル

モノアリ依テ之ヲ酒造規則ト修正セントス此ノ如クシハ稅率ハ無

○論此中ニ含有シ酒造ニ關スル事ヲ一般ニ總括シ得テ可ナラントス

○廿六番

柴原 和

賛成

○二十番

渡邊 驥

賛成 未開鐵

○四番

水本 成美

賛成

○三十三番

渡邊 昇

賛成

○二十八番

大久保 一翁

賛成

○議長 八番ノ修正說ハ五名ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十六番 細川潤次郎

八番ノ修正ハ至極穩當ナルカ如シ然ルニ本按若シ

○税ノ字ヲ廢スルニ至ラハ凡テ牽連スルモノハ同一ニ爲スヘキヤ即チ彼ノ醬麴營業稅則ノ如キハ如何

○八番 山口尙芳

已ニ之ヲ酒造規則トスレハ醬麴ノ稅則モ亦之ニ準スヘ

○シト雖モ該按ハ猶未問題タルニ至ラス仍テ其時機ヲ待テ更ニ之ヲ述ヘント欲スルナリ

○廿四番 福羽美靜

本官モ規則トスルハ同按ナレモ只酒造規則ト云フハ

其意味足ラサルカ如シ今試ミニ之ヲ修正セハ或ハ酒造營業規則トナサスンハ不可ナリトス故ニ此修正ノ行ハレシヨリハ寧ロ原按ノ勝レルニ如カス

○三十一番 玉乃世履

八番ノ修正ヲ如キハ之ヲ略說スレハ酒ノ製造方法

○ト云フカ如シ良シヤ之ヲ酒類ノ法律ナリトスルモ稅ノ字ヲ省ク所ハ收稅ノ事ハ果シテ此裡ニ含ムヤ否ヤ先ツ題號ニ就テ疑惑ヲ生スヘキヲ恐ル到底本按ハ收稅ヲ目的トスルモノナレハ稅ノ字ハ存セサル可ラス夫ノ酒造取締規則ノ如キトハ自カラ同シカラサルナリ

○八番 山口尙芳

異論者ノ說ハ甚タ解シ難キモノアリ抑々酒造規則ナル

者ヲ公布セハ一般ノ酒造營業者ハ果シテ如何ナル手續ヲ以テ酒ヲ造ルヲ得ヘキヤトノ注意ヲ以テ先ツ第一條ヲ見レハ願出免許鑑札ヲ受クルノ手續ヲ示シ相次テ造石數ノ事酒類ノ件納稅ノ項及ヒ禁令罰則等ニ至ル迄細大漏スナク乃チ之ニ準據セハ以テ業ニ就クヲ得ヘキナリ然ルニ只稅則ト單稱セハ或ハ單ニ收稅ノ項ノミナランカト疑ヒ自カラ此等ノ注意ヲ欠クノ恐レアリ且他ノ造船規則銃獵

規則ノ如キ往々税ノ字ヲ用ヒス規則ト爲スノ類アリ仍テ本官ハ之ヲ收税法ノミトセズ汎稱シテ酒造規則トセントスル所以ナリ

○三十三番 被邊 三十四番ハ酒造ノ下ニ營業ノ二字ナクシテハ不可ナリト難スト雖モ之ヲ加フルハ其規則ハ只營業者ノミニ止マリ他ノ

自釀者等ニハ及ハサルカ如ク其意味却テ狹隘ニ陷ラン依テ本官ハ營業ノ字ヲ入ルハ須ヒス八番ノ説ノ如ク可決セシコヲ欲ス

○二十七番 津田 原按ニテ可ナリ全体本按ハ何ノ爲メニ成立スルモノナルヤ只收税ヲ以テ目的トナスノミ既ニ此目的タル上ハ酒税ヲ

徴スルノ旨意ヲ明表スルヲ可トス若シ税ノ字ヲ廢セハ其何ノ爲メナルヲ知ラス誠ニ迂濶ナル法律ト云ハザル可ラス

○五番 東久世 承官モ亦原按ヲ可トス若シ修正ノ如クセハ從前ノ制

ニ抵觸セリ夫ノ車税則煙艸税則等ノ如キ之ト同一類ノ者ハ皆税ノ字ヲ掲ケ而シテ單ニ規則ト稱スルモノハ概テ税ヲ徴セサルモノナリ八番ノ説ハ不可ナリ

○十二番 補本 八番ハ他ノ鳥銃規則等ノ例ヲ舉ケテ自説ヲ維持スト雖モ彼等ハ收税ヲ目的トスルノ規則ニアラスシテ專ラ取締方法ヲ

主トスルモノナリ故ニ修正ヲ不可トシ同類ノ規則ニ決スルモ大ナル支障ナシト

○外五番 戸田 些細ノ文字ナレハ孰レニ決スルモ大ナル支障ナシト雖モ如今五番ノ説ノ如ク收税ヲ以テ目的トナスノ規則ハ渾テ税則

ト慣用セリ殊ニ本按ト類似ナル煙艸稅証券印稅ノ如キモ亦皆稅則トアリ彼是參酌セハ一般慣例ニ從フヲ可ナリトス但慣例ト云フハ或ハ酒類稅則トスヘキ説アルヘケレモ既ニ第三讀會ニモ辯明セシ

如ク從來ノ受賣小賣稅ヲ廢シ專ラ製造者ノミニ賦課スルノ稅則ナ

レハ之ヲ酒造ト改メサルヲ得サルナリ併セテ之ヲ辯明ス

○二十二番大給恒 原按ヲ可トス内閣委員ハ何レニテモ支障ナシト云

フモ決シテ然ラス一字ノ變換大ニ本体ニ關係スルモノアリ八番ノ

修正ハ不可ナリ

○議長 發議盡クルト認ム八番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者七人

○議長 八番ノ修正說ハ小數ナルニヨリ消滅シ即チ原按ニ決ス

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製

造スルヲ得ヘシ

第一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シクルモノヲ云フ

第二類 蒸溜酒 燒酎其他蒸溜シタルモノヲ云フ

第三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

○二十四番福羽美靜 修正ヲ要スルモノアリ一類ノ註ニ清酒濁酒其他云

ヤトアリ思フニ濁酒ニ對シ清酒同様ノ稅ヲ課スルハ寧ロ甚シトス

清濁豈分別セサランヤ仍テ濁酒以下ヲ删除シ單ニ清酒トナサント

ス

○議長 廿四番ノ修正說ハ賛成ナキヲ以テ消滅シ原按ニ同意者ハ起

立セヨ

起立者廿四人

○議長 多數ナルヲ以テ原按ニ決ス

○類書記官森山茂左ノ按ヲ朗讀ス

第三條立免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ

如シ

○酒造免許稅 一斗五升ハ賣出テキルハ賣出ノ額ノ百分ノ三同意者依テ

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

○酒類造石稅 一斗五升ハ賣出テキルハ賣出ノ額ノ百分ノ三同意者依テ

一類壹石ニ付 金貳圓

○二類壹石ニ付 金三圓

三類壹石ニ付 金四圓

○十五番安場保和修正ヲ要ス本條ハ已ニ第二讀會ニ於テモ議論沸騰シ

遂ニ稅額ノ事ハ當時內閣委員ノ說明ニ依テ財政上己ムヲ得サルニ

出シ所以ヲ詳悉スルニ至レリ然レモ今僅カニ酒稅ヲ增加シテ財政

○才困難ヲ補ハントスルモ決シテ其鴻益ナカラントス之ト反シ造酒

家ハ現行ノ稅額ニ倍數ヲ加ヘラル、ヲ以テ豈其苛ニ堪ユヘケンヤ

仍茲彼此斟酌シ衷ヲ折シテ以テ一類ノ造石稅ヲ一圓五十錢トナサ

ントス蓋シ內閣委員ハ數々酒類受賣小賣ノ稅ヲ廢シタレハ舊法ニ

○比シテ大ニ寬苛ナシト明言スト雖モ只概算ヲ以テ之ヲ推スモ從前

○五百萬圓ノ者ヲ一千萬圓トセハ政府ノ歲入ハ現ニ増スアルモ造酒

○家ニ至リテハタトヒ他ノ小賣受賣稅ヲ廢セラル、モ何ソ別ニ大ナ

○ル影響ヲランヤ自カラ苦シムハ是必然ノ勢ナリ是故ニ之ヲ舊ノ如

○クニ圓トスルモ猶不可ナシト雖モ枉テ五割増ヲ政府ニ許シ及ヒ他

○ノ三類三類等ハ大ニ人民日常ニ差響キナケレハ原按ニ從ヒ只熱心

ニ二類ノ五十錢ヲ減セシト欲スルナリ

○十二番楠本正隆賛成ス今詳細ニ區別シテ之ヲ云ヘハ濁酒ナルモノハ

俄カニ清酒ト税ヲ同ワスルヲ得ス之ヲ同様ニ賦課スルハ頗ル簡便

ナルニ似タリト雖モ其製方ノ煩簡ハ姑ク措キ己ニ世ニ飲酒ヲ許ス

上ハ本按ノ如キハ誠ニ不完全ノ者ト云フヘシ然ルニ今ヤ政府ハ財

政困難ナリトテ俄然此ノ如キ重税ヲ課スルハ寧ロ顧ミサルノ甚キ

モノトス然レモ先ツ簡便ヲ以テ一樣ニスルヲ是トセハ其間ヲ斟酌

シ減シテ一圓五十錢トスヘキナリ是レ聊カ政府ノ内情ヲモ酌量ス

レハナリ依テ十五番ノ修正ヲ可トス

○廿六番柴原和賛成ス己ニ同議者ヨリ其理由ヲ述ヘシ如ク舊法濁酒

税三十錢ヲ以テ直ニ二圓トスルハ幾ト七倍ノ數ヲ加フルモノナリ

故ニ第二讀會以來數多ノ減額説出テタレモ悉ク行ハレサリシハ本

官ノ常ニ憾ム所タリ然レハ清濁酒分離説ヲ述ヘンカ委員其實檢ニ

窮スト云フ其道ノ者ニシテ之ヲ檢セハ或ハ難カラサルヘシト雖モ

暫ク其情ヲ量リ之ヲ同一ニスルモ可ナリ己ニ同一ニスレハ豈減ス

ル所ナカラサルヘケンヤ仍テ十五番ノ修正説ヲ可トス

○三番神田孝平賛成

○十番箕作麟祥賛成

○廿一番鶴田皓賛成

○議長十五番ノ修正説ハ五名以上ノ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○外一番戸田秋成此問題ハ曾テ第二讀會ニ方リ十五番ノ提出シタル所

ニシテ其不可ナルハ其時已ニ之ヲ辯駁スト雖モ尙當時欠席者ノ爲

メ單簡其非ナル所以ヲ述ヘントス十五番自カラ云ハスヤ本按ノ
 ○起草者政府財政ノ困難ヲ救フカ爲メナルハ已ニ命ヲ聞ケリト此
 ○言早ク由カラ其説ヲ撞破セシモノナリ全体今回ノ酒稅改正タル一
 ○方ニ於テ其受賣小賣ノ稅ヲ廢止スルニ至ラハ又彼是相償フ所ナカ
 ○ルヘカヲササルヤ知ル可シ且ヤ一石ニ就テ論スルハ其稅額倍數ニ
 ○主ルト雖モ實地取引ニ於テハ一升僅カニ一錢ノ差ヲ見ルノミ加フ
 ルニ從來ノ制ハ其稅ノ寬ナルヨリ小額ノ酒造家大ニ起リテ大酒造
 家ニ競争ヲ生シ之カ爲メニ有名ノ造酒者ハ轉々困却スル所アリシ
 之ニ反シ新法ノ出ルヤ其重租ニ窮シ斯ル造酒者ハ皆旗ヲ倒シテ閉
 店スルニ至リ却テ大酒造家ノ幸福トナルヘシ此理ヲ以テ推セハ本
 按ノ二圓タル名ハ高稅ニ似タルモ其實ハ決テ大損失トハナラサル

可シ十二番ノ説ノ如キニ至リテハ最ニ論理ナシトス蓋シ清濁酒共
 ニ一樣ニスルハ不可ナリ因テ濁酒稅ハ減スヘシト云ハハ猶聞クヘ
 シト雖モ之ヲ減シテ清酒ニ及ホスハ未タ論理ノアル所ヲ知ラサル
 ナリ
 ○十五番 安場保和 内閣委員ハ本官ノ修正説ニ對シ已ニ財政ノ困難ヲ知
 了シ而シテ却テ減額論ヲ主張スルハ情理ナシト説破スト雖モ元來
 議政官ト行政官トハ自ラ其趣ヲ異ニスル所アリ行政官ハ動モスレ
 ○ハ自己一方ノ都合ノミヲ計ルト雖モ議政官ハ又他ノ人民ノ地位ヲ
 察セサル可ラス是本官カ官庫ノ困難ヲ愍ミ又民ノ情實ヲモ考ヘ互
 ニ折衷シテ之ヲ發議セシモノナリ且第二讀會ニ於テハ第二類第三
 類共ニ五十錢ヲ減セント欲セシモ今ヤ已ニ一歩ヲ退キ其最モ甚キ

者ノミニ就テ之ヲ論セリ然ルニ委員ハ之ヲ情理ナシト云フ抑々何
ソ言ソヤ本官不肖ト雖モ豈意ヲ計算ニ留メサランヤ修正ノ出所ハ
決シテ無算ニアラサルナリ

○三十三番 渡邊昇

十五番ノ説ハ不可ナリ全体本案ノ起草ハ財政困難

ニ原スト説クト雖モ本官ハ以爲ラク然ラス是レ收税ノ理ニ基クモ

ソニシテ早ク已ニ此起草アリシト信ス財政ヲ救フノ道豈茲ニ要セ

○シヤ但本官モ亦清酒濁酒ノ區別ヲ立ンコヲ欲スレト實地検査ノ煩

シキヲ察セハ亦之モ同一ニセサルヲ得ス已ニ之ヲ同一ニシテ

輕易ニ五割ヲ減スルハ不可ニアラスシテ何ソヤ況ヤ他ノ二類三類

トモ平均ヲ失スルニ於テヲ論者ハ他ノ二類ハ一類ノ如ク日常ニ

要用ナラサレハ本按ノ如クスト云ト雖モ他ノ味淋ノ如キハ又樞要

品ニアラスヤ畢竟本按ノ起因ハ日已ニ久ク充分ニ經由シ來ルモノ

○ト信スルヲ以テ收税ノ理ニ於テ之ヲ修正スルハ不可トナスナリ

○二十四番 福羽美静

本官ハ已ニ第二條ニ於テ清濁酒ヲ分別セントノ説

ヲ爲セリ而シテ其言遂ニ行ハレサルハ太々遺憾トスルニ本條ニ至

リ猶又其收税ヲ同一ニセントスルハ豈領容スヘケンヤ然ルニ十五

番ハ清濁酒ヲ區別スルハ實地困難ナレハ凡テ本額ヲ減シテ一圓半

トナサント云フ本官之ヲ聞キ頗ル満足ノ思ヒアリ何ソ圖ラン内閣

委員ハ原按ヲ支持シ縦ヒ二圓トスルモ他ニ障害ハナカルヘシ管ニ

之レナキノミナラス大造酒家ハ却テ繁昌ヲ致スヘシト是レ何ノ言

ソヤ看ヨ田舎ニ至リテハ各自其近所ニ小酒造家ノ多キヲ以テ爲メ

ニ日常ノ便利ヲ得ルニアラスヤ若シ之ヲシテ倒レシメハ所謂酒屋

へ三里ノ歎アラシメ恰モ舊幕時代ノ株ヲ定メテ商家ヲ限ルノ姿トナリ其不幸ヲ促シ愁聲ヲ來スハ期シテ待ツ可シ又三十三番ハ本按改正ハ財政困難ニ源スルニアラストノ想像說ヲ提起シ十五番ニ當ラントス是レ論スルニ足ラサルノ說ナリ且一類ノミヲ減シテ二三類ニ及ハサルハ不平均ナリト云フト雖モ已ニ二三類酒ハ日常欠クヘカラサルモノニモアラサレハ之ニ重税スルハ税法ノ理ニ適ヒ加フルニ清濁酒ニ減スルモノヲ彼ニ多クセハ則チ徵收ノ税數ヲ平均シ財政ノ困阨ヲ救フノ一助タリ何ソ不平均云フヲ得ンヤ故ニ十五番ノ說ハ可ナリ

○一番補田英世 本問題ハ頗ル關係ノ大ナルモノナリ元來本按ノ税額ヲ苛ト云ヒ不苛ト云フハ抑々何ノ點ヨリ發スルモノナルヤ西洋諸國

ノ如キハ皆之ニ重キ間税ヲ課シ到底奢侈物無用品トシテ多ク之ヲ徵ス固ヨリ世ノ常税ト同シカラス例ヘハ佛國ノ如キ葡萄酒ニ税セントスレハ先ツ其葡萄園ノ地税ヲ高クシ釀所ニ嚴課シ又製所ニ苛賦シ及ヒ賣店ニ重税ス之ヲ總計スレハ決シテ二圓乃至三四圓ノ比例ニアラサルナリ又財政困難ヲ引用スルノ說アリト雖モ今日ハ決シテ然ラス但政事繁劇ニ至レハ收税隨テ増サ、ルヲ得ス之ヲ増サスハ政治施シ難シ試ミニ明治元年ヨリ同八年ニ至ルノ歲出入表ヲ見ヨ八期ニシテ既ニ四億ニ出入ス西洋諸國ノ歲出入ハ一期ニシテ三億ノ數アリ今日ノ日本政府モ豈税ニ増加スル所ナカラサルヲ得ンヤ本按ノ如キハ素ヨリ當然ノ事ニシテ苟モ僅々五十錢左右ノ事ヲ云ヤスヘキニアラス況ヤ本額ハ人民ノ間税ナレハ酒造營業者

ニ於テハ別ニ困却スルニアラサルヲヤ
 ○八番山口本修正ノ説ニ多數ノ賛成者アルハ誠ニ怪ムヘシ十五番
 云ク議政官ハ行政官ト事爲動モスレハ反對スルコアリト然レモ已
 ニ三十三番一番等ノ述ルカ如ク能ク其大体ヲ顧ミサル可ラス看ヨ
 我地租改正ニ依リ租額ハ六百八十萬圓ヲ減スルニアラスヤ而シテ
 明治三年ノ頃ハ米價一石三步ニ出入シ當時尙一千二百萬石ヲ得タ
 リ今ヤ依然其平均相場ヲ存スルニヨリ終ニ其半額タモ收得スルコ
 能ハス實ニ是レ前見ヲ誤リシモノ、如シト雖モ政府ハ其改正ノ期
 ニ臨ムモ已ムヲ得ズ之ヲ据置カサルヘカラサルモノアリ故ニ之ニ
 代ルニ煙艸酒稅等ヲ以テスルハ亦至當ナリトス蓋シ夫ノ煙草ノ如
 キハ從來無稅ナリシニ突然現行ノ重稅ヲ以テスルモノハ不平スル

ヲ聞カス況ヤ已有ノ酒稅ヲ倍增スルハ事尙輕キニ於テヲヤ且現時
 ヲ以テ舊幕ノ時代ニ比セハ事物ノ改進皆然ラサルハナク從テ國用
 多キヲ要スルハ自然ノ理勢ナリ此時ニ方リ猶減稅ノ議ヲ主持スル
 ハ所謂古ノ人ニシテ大体ヲ顧ミサルモノト云フヘシ寧ロ此レハ止
 ムヘシ彼レハ廢スヘシト論斷スルノ淡泊ナルニ如カサルナリ已ニ
 第二讀會ニ於テ充分ニ討論アリシ如ク夫ノ請賣小賣稅ヲ廢スルト
 彼是加減セハ多ク軒輊ナキニ於テハ本案ノ増額ト云フモノハ本官
 却テ尙少シトスルナリ葭稅ノ如キ已ニ彼カ如シ是レ豈行ハレサラ
 シヤ十五番ノ説ノ如キハ畢竟社會ノ大勢ヲ顧ミスシテ益々財政ノ
 困難ヲ促スモノト云フヘシ改進ノ路上ヲ塞クモノハ夫レ此ノ如キ
 ノ謂ナル乎本官ハ憂慮ニ堪ヘサルナリ

○三十一番 玉乃 世履

十五番ノ修正説ハ誠ニ愛民ノ善良心ヨリ發スルモ
ソニシテ本官ノ宿論モ將ニ動搖セントス然レ正之ヲ熟思セバ其説
ハ善良ニ過キテ遂ニ自カラ倒ル、モノト一般所謂宋襄ノ仁尾生ノ
信タルヲ免カレサルナリ斯ク冒頭ニ説破セハ稍々過激ナルカ如シ
ト雖モ其問題已ニ勢力アルヲ以テ之ヲ駁スルハ亦相應ノ言ナカル
可ラス例ヘハ茲ニ父トシテ子ニ錦衣玉食ヲ與ヘタキハ良心ノ然ル
所ト雖モ家貧ニシテ成ヌヲ得ス若シ強テ之ヲ爲サントセハ自カラ
無理ヲ爲シ遂ニ分散ノ辱ヲ取ルニ至ラン我政府ハ固ヨリ未タ分産
ノ時機ニ至ラスト雖正又困苦ノ時節ナリ夫ノ米價ノ如キ今年ハ既
ニ豐稔ナルニ之ヲ昨年ニ比セハ大ニ騰貴シ紙幣ヲ以テ之ニ代ヘハ
實ニ其甚シキヲ致セリ此ノ如キハ畢竟米類ノ拂底ナルニ依レテ素

○ヨリ其濫用ヲ抑ヘサル可ラス今ヤ楮幣下落シ金銀騰貴ヌ之ヲ救濟
スルハ先ツ歲入ヲ增多シ無用品ニ加稅スルノ外ナキナリ此時ニ方
リ猶五十錢ヲ減セント欲スルハ乃チ善政ニ失スルモノニアラスシ
テ何ツヤ蓋シ錦衣ヲ衣セ玉食ヲ食セシムルノ時モ亦必ス之レアラ
ン然ルニ今強テ之ヲ爲サント欲スルハ彼我共ニ溺レテ遂ニ分散ノ
憂ヲ見ルアラシクモ未ダ空論ナラズ

○三番 神田 孝平 本官ハ本條ニ對シ別ニ修正説アリ免許稅ノ上ニ每一期

ノ三字ヲ加ヘントス由テ豫シメ之ヲ述フ

○議長 發議盡ルヲ以テ十五番ノ修正説ニ決ヲ取ラン之ニ同意者ハ

起立セヨ

起立者八人

○議長十五番ノ修正説ハ少數ニヨリ消滅ス

○三番神田孝平本官ノ每一期ノ字ヲ加フヘシトノ主意ハ更ニ贅述セザ

ルモ各位之ヲ明ニセン但本條ノ意ハ必ス二期ニ定マルモノナルヘ

シ然ルニ一期ノ字ハ初メテ第四條ニアルヲ以テセハ本條ハ恐ラク

○ハ之ヲ省略セシモノナラシカ且舊勸業稅則ニモ現ニ此字アリ乃

チ本條ニ之ヲ加ヘサレハ未タ整備ナラストス

○十番箕作麟祥賛成ス固ヨリ其每一期タルヤ知ルヘシ故ニ之ヲ分明ニ

スルハ要用ナリトス但第九條ト或ハ抵觸スルカ如シト雖モ是レ其

時ヲ待テ論明スヘシ

○十七番伊丹重賢賛成

○議長其三番ノ修正説ハ賛成滿員ニ缺クルヲ以テ消滅ス即チ原按ニ

同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス時已ニ正午ヲ過ク吃飯ノ爲

メ一旦散會スヘシ

○議長午後零時十五分開場

○議長午前引續ノ議ヲ開ク第四條以下ニ就テ發議スヘシ

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期ト

書記官森山茂左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期ト

書記官森山茂左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期ト

書記官森山茂左ノ按ヲ朗讀ス

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘシ右期

日ヲ過クレハ免許セサル者トス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出

シ書換ヲ乞フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其

旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ニ同意者ハ起立セヨ

一 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ三月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 七月三十一日限

四月一日ヨリ六月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造ス

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ

總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混

和スル者モ其造石税ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラシ本按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製 第一章第二

酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ

石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘ

但シ變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管

廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造

石税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシ

○雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ニ同意者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スルキ付何酒類ヲ問
ハス其仕込タル酒も與其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ

檢査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ間ハス使用以前管廳へ申出其容
量ノ檢査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もとヲ販賣スルヲ許サス

第二十二條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サス

第二十三條 檢査未済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消費スル

ヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒器機ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使

用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ

請フヘシ

○番一 戸田秋成 第二十五條ノ末文ニ請クハ受クト修正セリト覺フ今

書記官之ヲ請フ下朗讀スルモ惟フニ是レ誤讀ナランカ

○十六番細川潤 否一旦受ノ字ニ改メシモ内閣委員議場不在ノ間本

○官ノ動議ヲ以テ請フ下可決セシマリハ受ノイ動五ノイ受テ全

○議長 他ニ發議ナシ本按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ハ該一期造酒見込ノ種目

石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出

案ハシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免

許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章

○第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ニ製

造諸器械トモ沒收シ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル

者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併テ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追

徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受テ製造スル者ハ第廿九條ニ據テ處分シ

之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 造酒石數ノ検査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ其代價

ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒

類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類もともろト雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處

分ス

○廿四番 福初 美静 二十八條ニ異議アリ本官ハ前會出席セサリシニ依リ

如何ナル議アリシヤヲ知ラスト雖モ該條ニ戶外ニ掲出云々トアリ

製造ノ石數ヲ戶外ニ揭示スルハ是レ検査官ノ爲メニハ頗ル便利ナ

ルヘシト雖モ故ヲニ其賣品高ヲ世上ニ公示スルハ他ノ營業ト平ヲ

失スルモノアリ而シテ單ニ之ヲ検査ノ目安トセハ或ハ造酒高ノ偽

ヲ掲クルモ亦知ル可ラス要スルニ斯ル些事ニ干涉スルハ恐ラク得

策ナラサルヘシ仍テ本條ハ删除スルヲ可トス

○十二番 補本 正隆 賛成ス如今二十四番ノ言ノ如ク是レ検査ノ爲メニハ

便利ナルヘケレ氏翻ツテ其商人ノ地位ニ換ツテ考察ヲ下セハ如何

ソヤ苟モ僅ヤ一石斗升ノ額ヲ揭示スルハ自己ノ身代ヲ世ニ公表ス

ト一般誠ニ不快ナラスヤ之ヲ他ノ商業ニ就キ比類ヲ求ムルハ只

夫ノ媚門ニ寫影ヲ牌表ト爲セシモノアルヲ見ルノミ然ルニ彼ハ自

家商業ノ景氣ヲ修飾スルカ爲メニシテ彼是固ヨリ同一ノ談話ニア

ラス苟モ己ノ身代ヲ擧ケテ人ニ示スハ或ハ其人ノ榮譽ヲ缺クノミ

ナラス特ニ煩雜ニシテ爲メニ營業ヲ妨クルノ恐レアリ須ラク之ヲ

删除スヘシ

○議長 二十四番ノ修正説ハ賛成者員ニ滿タサルニ依リ消滅ス即チ第二十六條ヨリ第三十一條ニ至ル原按ニ同意者ハ起立セヨ

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス
書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ
但未製成ノ酒類 雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消糜シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違反ス

○ナル者ハ壹圓ヨリ少ナカラス三拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘ

○議長 發議ナシ本按ニ同意者ハ起立セヨ

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スル者ハ一年壹石 各種製造スルトキ 超ヘカラス若シ壹石ヲ超ルトキハ總テ本則ニ從フヘシ

○二十六番柴原和本則ニ就テハ第二讀會ニ於テ本官等修正ノ員ニ膺

リ原按ノ一石ヲ三石トシ尙末文ニ詳細罰文ヲ掲ケシモ不幸ニシテ

今朝讀ノ如ク改刪スルニ決セリ熟思スルニ自家飲料ノ收稅ヲ一石

ト限ルハ頗ル酷薄ニシテ窮窟ニ堪ヘサルナリ依テ彼是ヲ折衷シ更

ニ之ヲ二石トセハ互ニ偏重偏輕ノ憂ナク乃チ完全ナル法按ヲ得ヘ

シト信ス且已ニ末文ハ凡テ本則ニ從フヘシト改刪セシ上ハ禁令罰

例共ニ酒造稅則ニ全從セサルヲ得ス寧口過嚴ト云ハサル可ラス故

○ニ石數ヲ寬メテ二石トセハ稍々其宜キヲ得ン

○十二番楠木正隆本官ハ原ト之ヲ三石トスルノ持論ナレモ已ニ行ハレ

サル上ハ寧口原按ニ勝ルヲ說ニ從ハサルヘカラス仍テ二十六番ヲ

賛成ス

贊成ス

○十七番伊丹重賢賛成

○十番箕作麟祥賛成

○三十一番鶴田皓賛成

○二十九番伊集院兼寛賛成

○三十三番渡邊昇賛成

野田會ノ情狀ヲ斟酌セシ故ナリ然ルニ之ヲモ采ヲスシテ一石ニ超

ユルキハ本則同一ノ罰ヲ加フト爲ス豈苛酷ナリト云ハサル可シヤ

蓋シ今之ヲ二石ト爲スハ或ハ只一ト三トヲ折衷セシモノ、如ク論

舉スヘケレモ翻テ實地人民生計上ニ考察ヲ加フレハ二石ノ制限ハ

最モ今日ニ適當ナルモノトスルナリ

○議長 二十六番ノ修正說ハ定規ノ賛成アルニ依リ問題トナス

○廿四番 福羽美静 本官ハ修正説ニ同意スルヲ能ハス蓋シ其意ハ稍々人
民酒造ノ法ヲ寛ニスルニアリ然ルニ夫ノ自家釀造ハ眞ニ無用ノ如
ク斥論スト雖モ田舎ニテハ之カ爲メニ便益ヲ享ルコト太々少ナカラ
ス若シ今ニシテ突然之ニ法度ヲ加フルハ其迷惑ハ實ニ云フヘカ
ラサルモノアリ故ニ本官ハ僅カニ其字句ノ修正ニ止マラス全ク之
ヲ删除セントス請フ試ニ之ヲ述ヘン抑々本按ノ如キハ自釀者ニシ
テ若シ斗升ノ酒モ之ヲ他ニ賣ルコアラハ本則ニ由テ處分ヲ爲スハ
勿論ナリト雖モ或ハ一石乃至二石以上ノ多釀ヲナスモノアリテ之
ヲ營業者ト看認ムルハ乃チ僅々三石ノ酒モ亦彼ノ第二十八條ノ
場合ニ從ヒ之ヲ戶外ニ掲ケ但賣物ニアラスト附箋ヲ加ヘテ公示セ
サルヲ得サルニ至ラン此ノ如キハ最モ自家飲料ヲ製スル田舎人ノ

便益ヲ妨クルモノトス故ニ二十六番ノ修正説消滅セハ本官ハ其刪
除説ヲ提出セント欲スルナリ

○十五番 安場保和 本官モ二十四番ト畧其按ヲ同フス依テ二十六番ノ説
ニ同意スルコト能ハス

○九番 黒田清綱 廿六番ノ修正ハ一ヲ二ニ改ムルノミナル耶

○廿六番 柴原和 然リ

○一番 戸田秋成 本問題ヲ駁スルニハ多言ヲ要セサル可シ已ニ酒造稅
則第三條ヲ可決セハ本按ノ原則ハ一石ヨリ動カス可ラサルモノナ
リ且既ニ附則トセハ皆本則ニ從フヘキハ明々白々タルニ彼ヲ可ト
シテ是ヲ非トスルハ素ヨリ原則ニ背クモノニシテ最モ法理ニ於テ
不可ナリトス

○八番山口 尙芳

前會以來石數ニ對シテハ之ヲ删除ト云ヒ又三石ト云ヒ

二石ト云ヒ修正ノ諸說紛出セシニ遂ニ皆破レタルヲ以テ今ヤ全力

ヲ二石論ニ集メ茲ニ問題トナリタルモノナリ已ニ第二讀會ニハ三

石ヲ主持シ第三讀會ハ二石ニ減シタルヲ以テ見ルニ倘シ第四五讀

會ヲ經過スルモノトセハ必ス原按ノ如ク一石ニ歸着ス可キヲ信ス

蓋シ論ハ推究スルニ從フテ適當ノ地ニ達スルモノナリ故ニ此說ニ

對シテハ亦多言ヲ以テ之ヲ駁スルヲ要セサルナリ

○三十三番渡邊 昇 八番ハ會議日ヲ追フテ石數ヲ減スト云フト雖モ本

官ハ依然二石ヲ主張シ今尙之ヲ變セサルナリ蓋シ此石數ノ如キ一

ト云ヒ二ト云フモ言語上ニテハ瑣々タル者ノ如シト雖モ其實ニ

倍半ナレハ之ヲ實行スルニ方レハ決シテ容易ナルモノニアラス之

ヲ弘ク一般農家ノ自釀ニ當テハ推考スル所ハ其一石ノ差ハ寛苛大

ニ情感ヲ異ニス然レモ之ヲ三石トスルハ遂ニ原按ノ精神ヲ害シ實

地又放恣ニ過クルヲ以テ彼是宜キヲ制セシ石數ナレハ決シテ朝三

暮四ノ說ニアラストス

○一番補田 英世 本官ハ前會ニ於テモ原按ヲ贊成セリ蓋シ内閣委員ノ言

ニ一石ノ比例ハ全國ノ實際ニ就テ立按セリト云フヲ信セシニ依リ

シナリ已ニ政府カ實際ニ比例シテ宜キヲ制セシモノヲ席上ノ推察

揣摩ノ臆說ヲ以テ之ヲ動カスハ非ナリトス一石ハ乃チ其當ヲ得タ

ルモノナリ

○四番水本 成美 本則ハ本官前ニ修正ノ員ニ膺リ之ヲ三石トスル當時已

ニ其非ヲ悟リ全ク其意見ヲ異ニスト雖モ多數ニ從フノ例ニ依リ遂

ニ默從セリ抑々立法官ト雖モ行政官ト雖モ法律ノ目的ヲシテ善ナ
 ○ラシメシムルヲ務ムヘキハ言ヲ俟タサルナリ本按改正ノ目的タルヤ
 行政官ハ財政ノ困難ヲ救フノ本旨ニシテ他品ニ稅スルハ忍ヒサル
 ヲ以テ先ツ無用品タル酒類ニ增稅セシトスルノ仁政ニ出ツ然レハ
 則チ那ノ自家釀造ノ如キハ全ク禁止スルモ亦不可ナシト雖モ從來
 ノ慣行一時ニ禁斷スルヲ慙ミ一石以内ノ自釀ヲ許セハ一家生計上
 ○ニ於テ大ナル差支ナカルヘシトスル慈善ノ法按タルヲ知ルヘシ已
 ○ニ一石以内ノ自釀ヲ許スヲ以テ仁政トセハ或ハ之ヲ二石トシ又三
 石トスルモ別ニ著シキ仁政トモ稱シ難シ此反對ノ點ニ於テ自家飲
 料ヲ禁止セハ乃チ實際便不便如何ト顧思セヨ思ヒ半ニ過シ已ニ一
 年間ノ飲料ヲモ自釀スルモノハ其財產上決シテ遠ク二石三石ヲ購

求スルニ差支ユルカ如キモフニアラヌ然レハ則チ貧民等ノ困却ス
 ルヤ否ヤニハ痛痒相感セサル所ナリ況ヤ已ニ一石以内ノ寬許ヲ得
 ルニ於テヲヤ故ニ原按ニテ可ナリトス夫レハ本按ハ其内閣委員

○十六番 細川潤次郎 四番ノ説ハ實ニ老鍊者ノ言ニ背カス其適實ナル寔

ニ感スヘキナリ本則ノ如キハ本官固ヨリ充分ノ法律トハ思及セザ
 ルモ今諸説ヲ參考スレハ四番ノ説尤モ心ヲ得たりトス請フ其故ヲ
 述ヘシ原來本則ヲ以テ酒造稅則ニ加フルルハ則チ撞着ノ嫌ヒナキ
 ニ非ヌ之ヲ以テ推セハ自釀ハ全ク禁止セサルヲ得サルカ如シ然ル
 ニ本按之ヲ禁セスシテ幾分ノ餘裕ヲ與フルモノハ蓋シ已ムヲ得ザ
 ルナリ看ヨ本按ハ已ニ廢稅ナリシ釐釐スラ尙多ク營業稅ヲ課シ及
 且現行ノ酒稅ヲ倍ス彼等已ニ然リ豈之ヲ少シトセンヤ故ニ本按ノ

精神ヲ舉ケテ全ク否ナリトセハ其說或ハ聽クヘシト雖モ己ニ其精神ヲ可トシ而シテ之ノミヲ酷ナリト云フハ解セサルノ甚シキモトス試ニ思ヘ近來歲入ハ次第ニ多キヲ加ヘサルヲ得サルノ時ニ當リ其之ヲ補フハ將タ何物ヲ以テセンヤ苟モ酒類ヲ除カハ恐クハ他ニ物ナカラントス若シ他品ニ増稅センカ反對論者ハ尙且之ヲ非難スヘシ仍テ本官ハ彼是推考シ本按ハ尙寬ナリ附則ノ如キモ却テ不充分トスル所ナリ然ルニ今問題ノ如ク之カ制限ヲ二石トセント云フハ蓋シ一石トセハ自造者迷惑ストノ旨ナルヘシ若シ之ヲ二石トシテ迷惑セストノ確証アラハ本官モ亦或ハ之ニ從ハンカ内閣委員已ニ云ハスヤ北國ニ於テハ數十石ヲ自釀スルモノアリト然レハ之ヲ三石トナスモ四石トスルモ自釀者ノ迷惑ハ皆一ナリ況ヤ四番ノ

說ニ自釀者ノ如キハ皆郡村ノ富豪ナレハ一般貧民ノ迷惑ニ關スルコト少ナシト明解アルニ於テヲヤ本官深ク此說ニ感スルヲ以テ其驥尾ニ附シ併セテ問題ヲ駁ス
 ○廿六番柴原和自家釀造ヲ禁セスシテ之ニ餘裕ヲ與フルハ仁政ナリトノ說アルハ抑々何ノ言ソヤ若シ仁政ヲ主張セハ全ク酒稅ヲ免スルヲ宜シトス獨リ酒稅ノミナラス地租モ雜稅モ共ニ免スヘシ斯レ實ニ取ルニ足ラサルノ說ナリ又一番ハ内閣委員ノ說明ヲ偏信シテ實際適切ノ法按ヲ破ル可ラスト云フト雖モ本官ハ之ニ反シ委員ノ說ヲ以テ迂濶最甚ノ空論トナスナリ又四番十六番等ハ自釀者ハ富人ノ家ニ多ケレハ其稅ノ如何ハ貧民ノ迷惑トナルノ憂ナシト云フト雖モ夫ノ濁酒ノ如キハ概テ貧民ノ自用スル所ナリ已ニ之ヲ製ス

ルニ二圓ノ税ヲ課ストセハ其迷惑ハ何ソ少カランヤ反對者ニ於テモ人民ノ迷惑タルコハ已ニ自カラ明言シ且困苦ヲ訴フルノ徒之カ爲メニ出ルコハ覺知セシニアラスヤ故ニ務メテ其患ノ減センコヲ欲シ此修正説ヲ提出セシナリ

○議長 發議盡クルヲ認ム廿六番ノ修正説ニ同意者ハ起立セヨ

起立者九人

○議長 少數ナルヲ以テ廿六番ノ修正説ハ消滅ス

○二十四番 福羽 美靜 本官ハ此附則ヲ刪ラント欲ス其意ハ已ニ前陳セシ

カ如シ且苟モ人民自家ノ飲料ニ對シ干涉シテ之ニ制限ヲ立ツルハ大ニ其自由ヲ壓抑シ法理ニ於テ穩カナラサル所ナリ已ニ酒造税則ト題シ其商業者ノ酒造ニ税スルノ本則ナルニ假ヒ附則ト爲スモ一

家私用ノ者ト併セ載ルハ豈不都合ナル法度ナラスヤ然レモ全ク之

ヲ刪除セハ亦後患ヲ免カレサルヲ以テ之ニ換フルニ別ニ一條ヲ加ヘ酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノ爲メ酒造シ若シ販賣スル者

アレハ總テ營業者ヲ以テ論スヘシト記入セント欲ス到底本官修正ノ主意ハ政府ハ人民ノ私事ニ干涉スルコト不可ナリトシ人民モ亦其

私物ヲ公賣スルニ於テハ許スヘカラスト云フニ外ナラサルナリ

○十五番 安場 保和 賛成

○議長 廿四番ノ修正説ハ賛成員ニ充タサルニヨリ消滅シ乃チ原按ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事ハ舊廻營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

舊廻營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 釀造酒類ヲ製造營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願

出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ人只テ亦其

舊廻營業稅金五拾圓ヘシ人只テ亦其旨管廳ニ願

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月二十日迄ヲ以テ一

期トスハ其旨管廳ニ願

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納

八番 山口 大抵律文ハ同一ナラシヲ欲ス本則第一條モ酒造稅則

第一條ニ準ヒ冒頭ニ凡ソノ字ヲ加ヘ製造ノ下ニシテノ二字ヲ入レ

願出ノ次ニ製造場一箇所毎ニノ八字ヲ插入スルヲ可トス是皆ニ酒

造稅則下文ノ相等キヲ得ルソミナラス製造場云々ノ添加ヲ爲サス

シハ或ハ一人ニシテ多數ノ製造所ヲ所持スルモ一ノ營業稅ヲ納ム

レハ足レリト誤解シ立按ノ主義ニ戻ルモイアルモ亦誣ユヘカチサ

ルニ至ラン仍テ之ヲ分明ニ揭示スルハ兩全ヲ道ナリトシ各位ノ贊

成ヲ得テ可決センコヲ希望ス

○三番 神田 贊成

○五番 東久世 贊成

通禮

五十二

○二十番 渡邊 賛成

○一番 楠田 英世 賛成

○十六番 細川潤 次郎 賛成

○議長 八番ノ修正説ハ定規ノ賛成者アルニヨリ問題トナス

○十五番 安場 保和 八番ノ釐麴兩稅則ノ文章相齊キヲ求ムルノ意ハ則チ

美ナリト雖モ元來酒ト釐麴トハ其營業ノ體質同シカラサレハ其收

稅ノ法モ亦一概ニ同フス可ラス蓋シ釐麴ハ那ノ酒類ノ如ク廣ク營

業スルヲ得ルノ類ニアラス然ルニ之ニ課スルニ酒類全様ノ重稅ヲ

以テスルハ太々穩安ナラス仍テ原按ヲ可トス

○廿六番 柴原 和 本官モ原按ヲ可ナリトス其故ハ今十五番ノ言ノ如キ

ノミナラス此製造者タルヤ彼ノ酒造家ノ如キ大ニ會社等ヲ興シ廣

ク天下ニ分店支社ヲ設クルノ類ハ實地ニ於テ萬アル可ラス且八番

○八本條ノ冒頭ニ凡ソノ字ヲ加ヘントスルハ當ラス何トナレハ釐麴

ハ釐麴ト單稱シ夫ノ酒類ノ如ク各類併稱スルモノニアラサレハナ

リ今故ヲニ文字ヲ均齊セントシテ却テ本意ヲ害スルハ不可ナリ

○八番 山口 尙芳 廿六番ハ凡ソノ字義ヲ講スト雖モ釐麴モ亦一種ニ止マ

ルモノニアラス之ヲ加フルハ敢テ不可ナシ蓋シ是文字ノ穿鑿ニ涉

レハ強テ之ヲ爭フヲ須ヒスト雖モ製造場一ヶ所毎ノ文字ヲ加フ可

ラスト云フニ至ツテハ默止ス可ラサルモノアリ畢竟十五番廿六番

等ハ目今我人民ヲ以テ正人君子トシテ立論スル者ノ如ク已ニ法網

○ヲ巧避シテ私業ヲ營ムノ奸商黠賈ナシトセハ固ヨリ法文ハ明瞭ナ

ラサルモ可ナリト雖モ苟モ今日ノ法ヲ制スル豈此ノ如クスヘキモ

ノナランヤ已ニ法ヲ定ムレハ其迷路モ亦之ヲ豫防セサルヘカラス

○三十一番 玉乃 世履 八番ヲ賛成ス本官ハ初メヨリ製造請賣ノ別オクテ

アル割註ヲ除クハ太々不同意ナリシモ遂ニ衆議删除ニ決セシ上ハ

黙従スルノ外ナシト雖モ醬麴製造營業稅ニ至リテハ必ス其箇所ス

ニ取立シヨヲ欲ス且既ニ酒ハ箇所ニ稅シテ醬麴ハ否ラストナス

ハ法理ノ背馳焉ヨリ甚キハナシ前會ニ於テハ十六番モ亦已ニ箇所

○ニ取ルノ意見ナリト云ヘリ本官素ヨリ其然ルヘキヲ信セリ到底故

造ヲ以テ法文ヲシテ不具ニ陥入ラシムルハ立法官ノ爲セザル所ナ

リ故ニ八番ヲ賛成ス

○十六番 細川潤 次郎 今三十一番ノ陳述ノ如ク本官ハ素ヨリ箇所ニ取ル

ノ意見ナレハ前會ニ於テ大略其意ヲ陳セシニ當時已ニ紛議アリシ

○モ今ヤ幸ニ八番ノ發議アリテ三十一番又本意ヲ助ケラル思フニ反

對論者モ今ニ於テ更ニ當時ノ言意ヲ解了セシナラン到底法文ハ同

○一ナルヲ要スルノミ本官ニ同意者ハ起立セヨ

○議長 發議盡ルヲ認ム八番ノ修正說ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ八番ノ修正ニ決ス又第二條第三條本按ヲ可

トスル者ハ起立セヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其節該一期中販賣見込ノ石數ヲ管廳

へ届出ヘシ
但石數ノ増減ハ其時々届出ヘシ

○第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏
ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳へ差出シ検査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出
シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳
ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

○議長 發議ナキヲ認ム本按ニ同意者ハ起立セヨ
○議長 發議ナキヲ認ム本按ニ同意者ハ起立セヨ

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス
○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

○第八條 免許ヲ受ケタル者ハ舊賣捌所ト書シタル標札へ免許鑑
札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令
第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス舊賣ヲ營業スル者ハ科料トシ其營業稅
十二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳
記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカ

ラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ
○十番 箕作麟祥 茲ニ第十條ト第十一條トノ間ニ一條ヲ添加セントス

○其故ハ第二讀會ニ於テ十六番ノ修正ニ依リ禁令及ヒ第九條ヲ加ヘシニ基ケリ已ニ之ヲ加フレハ其罰條ナカルヘカラス且法文ノ同一ナルヲ欲ストハ前會以來ノ輿論ナリ旁々以テ酒造稅則第三十條ノ文ヲ茲ニ移シ來リ新ニ第十一條免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第十條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシトシ今之十一條ヲ第十二條トシ此冒頭ニ前明條トアルヲ前二條ニ作ラントス或ハ酒稅罰則ヨリ過重ナリトノ異議アルヘケレモ是レ器械沒收等ノ事ナキヲ以テ亦偏重ノ憂ナシトスルナリ

○四番水本 成美 賛成

○十七番伊丹 重賢 賛成

○廿六番柴原 和 十番ニ間フ前二條ト云フハ或ハ前三條ノ心算ニアラスヤ

○十番箕作 麟祥 更ニ明瞭ナルヲ覺ユ仍テ前言ハ誤リナルヲ諒セテレシ

○二十六番柴原 和 賛成

○三十二番林友 幸 賛成

○十五番安場 保和 賛成

○議長十番ノ修正說ハ賛成滿員ニヨリ問題トナス

○一番楠田 英世 十番ノ修正說ハ頗ル理アルガ如シ但雖モ其事ヤ重大ナレハ輕易ニ決シ難シト思フ仍テ該按ヲ頒布シ衆官熟考メ後更ニ確

○定決議會ヲ開カレンヲ建議ス

○十六番細川潤次郎 十番ノ説ハ可ナリ一番ハ事重大ニ涉ルト云フト雖

モ只事情ノ雜錯セシノミニシテ決テ容易ニ定メ難キモノニアラス

トス蓋シ本官ハ前會ニ於テ禁令及ヒ第九條ヲ加ヘシ時ニ方リ已ニ

此精神ヲ抱ケリ其已ニ當時ニ在テモ此意ヲ抱キシコトヲ証センニ其

借受者ノ罰ハ之ヲ免許鑑札ヲ受ケサルモノト同一ニ論セントセリ

乃チ五拾圓ノ二倍百圓ノ罰ナリ貸與者ノ罰モ亦然リ即チ其貸與ノ

鑑札ハ無効トシテ之ヲ取上ルナリ此理由ナルヲ以テタトヒ十番ノ

説ノ如ク之ヲ明揭セサルモ其意ハ已ニ本官ノ修正中ニ含蓄セリ而

シテ其議出レハ寧ロ之ヲ明示スルヲ可トス蓋シ事ニ錯雜ナルカ如

キモ決テ重大ト云フヘキモノニハ非ラス

○議長 一番ニ間フ建議ノ精神ハ本會之ヲ決セスシテ確定會ヲ開カ

ントスルカ將タ一旦決シテ後更ニ確定決議ニ付セントスルニ在ル

カ

○一番楠田英世 本官ハ本會ニ之ヲ決シ猶確定會ヲ開カンコトヲ望ム今十

六番ノ説ニ依テ稍々其意ヲ了解シタレト本官ハ第二讀會ニ欠席セ

シヲ以テ首尾詳細スルニ苦シム各官中或ハ同感ノ人アラン依テ建

言セシナリ

○二十二番大給恒 實際ニ於テ借受營業者ハ免許鑑札ヲ受ケサル者ヲ

以テ論スルハ無論トスルモ十番ノ修正ハ頗ル錯雜ナルカ如キヲ以

テ明カニ衆聽ニ洞達セシムルハ緊切ノコトス仍テ更ニ書記官ノ之

ヲ朗讀センコトヲ望ム

○書記官森山茂 十番ノ修正按ヲ朗讀ス文接ハ前ニ出ルヲ其文書

○三十一番^{玉乃} 本官ハ之ヲ賛成セントシテ能ハサル所アリ其文字ハ那ノ酒造税則ト能ク對照スルヲ得レト却テ法理ノ合サルモノアリ彼ニ倍數ノ罰金ト云フハ營業稅三十圓ノ倍數乃チ六十圓若ルモ是ハ五十圓ノ倍數乃チ百圓ナリ全体本按起草ノ意ハ酒ヲ以テ釀翹ヨリ賤シカラシムルモノニアラス只他ニ造石稅アルヲ以テ之ヲ廉ニセシノミ然ルニ其罰則ニ當リテ却テ其輕重ヲ反對スルハ法理ニ於テ權衡ヲ失スルモノトス而シテ原按ハ文面同シカラサレト法ノ平均ハ能ク相持ス若シ釀翹營業者ニ造石稅ヲ荷セザレハ修正ノ如キハ不可ナトス

○八番^{山口} 本官モ修正說ヲ賛成セントシテ能ハサルモノアリ然レト又三十一番ノ說ト同シカラズ修正說ニ依レハ貸借者共ニ金額同

一ナリ借者ノ百圓ヲ罰科セラル、ハ已ニ明ナリト雖モ之ヲ貸與セシ者モ其鑑札乃チ五十圓ニ價スルモノト併セテ其免許稅相當ノ者ト云ヘハ乃チ五十圓ナレハ合計百圓ヲ徵收セラル、ノ計算ナリ此ノ如キハ修正者ハ兩箇ヲ分別スト云フト雖モ結局是レ一ニ歸ス故ニ之ヲ明示セハ終ニ却テ其意ヲ達スルヲ得サルニ至ラン原按乃チ可ナリ

○十番^{箕作} 三十一番八番ノ駁議ハ其旨ヲ異ニスト雖モ其歸スル所文字ハ平均ヲ得ルモ法理權衡ヲ失フト云フニ過キス然レト已ニ論者ノ可ト揚言スル原按第九條免許鑑札ヲ受ケヌシテ營業スルモノ、罰科ハ乃チ二倍ヲ徵スルノ明文アルニアラスヤ已ニ之ヲ可トシテ本官ノ修正ヲ不可トスルハ何ノ理由ナルヤ且酒造ノ罰科ニハ別

ニ製造諸器械ヲ沒收スル等ノ附加刑アレハ彼是平均シ百圓ノ罰金
 ハ必スシモ偏重ナリト云フヘカラス又八番ノ論旨ナル鑑札ヲ取上
 及ヒ其相當罰金ト云ヘハ合セテ百圓ノ科料ナリトハ已ニ酒造稅
 則ニ於テモ然ルニアラスヤ畢竟本官ノ修正ハ酒造稅則ニ比準セシ
 モノナレハ已ニ彼ヲ可認シタルモノニシテ是ヲ不同意ト述ルハ遂
 ニ理會シ難ク本官ハ駁論ヲ起ル毎ニ太々怪訝ニ堪ヘサルナリ

○三十三番 渡邊 十番ハ新タニ九條ヲ加入シタレハ十一條モ亦之ヲ
 加ヘサルヲ得スト云フハ論理ニ於テ誤レリト云フヘシ若シ明文ノ
 罰例ナクシハ互ニ貸借シテ業ヲ營ムヲ得ト思フ可キモ實際ニ於テ
 ハ決シテ他ノ物ヲ借テ之ヲ爲スヲ得ヘシトスルモノハアラサルナ
 リ縱ヒ之レアリトスルモ之ニ向テ二倍ノ罰金ヲ徵スルハ重シトス

則チ之ヲ問フハ末條ナル本則違犯者ト看認テ可ナルノミ

○四番 水本 成美 本官ノ十番ヲ賛成セシハ頗ル其說ノ當ヲ得タリト信ス

レハナリ原來原按ハ酒造稅則ト比シテ大ニ不充分ナリシニ先ツ十
 六番ノ九條追加ニ依テ其美ヲ致シ今又十番ノ修正ヲ添ヘテ善ヲ悉
 シタルモノトス三十一番八番等ノ駁論ハ偶マ誤レリ克ク前後ヲ熟
 思セハ必ス修正セサルヘカラサルノ理由ヲ悟リセン

○議長 發議盡クルヲ以テ決ヲ取ラン十番ノ修正說ニ同意者ハ起立

セヨ
 ○起立者十一人

○議長 少數ナルヲ以テ十番ノ修正說ハ消滅ス

○十六番 細川 潤 次郎 些細ノ事ナレモ之ヲ内閣委員ニ問ハントス第十條

○新書記官

森田 藤左衛門 按テ朗讀ス

布告按

内閣委員 大野實 大野實 大野實 大野實

明治六年三月第二百二十一號布告金札引換公債證書發行條例並改正追

加ノ分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事

世二番 世一番

改定金札引換公債證書條例

第一章 總則

世一番 世二番

第一條 金札引換公債ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行

シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フモノトス

第二條 外國人ヲ除クノ外何人モテモ第四條ニ記載スル各種証書

面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債ニ交換シ其証書ノ交附ヲ

受テルヲ得ヘシ

第三條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ

成規ニ遵ヒ之ヲ裁斷消却ス

第二章 金札引換公債證書ニ付シテ五百圓百圓五拾圓

第四條 金札引換公債證書ハ記名利札附ニシテ五百圓百圓五拾圓

ノ三種トス

第三章 元利金之仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三ヶ年据置四

ヶ年目ヨリ向十二ヶ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ償却

シ利息ハ一ヶ年六分ノ百分

ノ兩度ニ拂渡スヘシ

但抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテ八年六分ノ利息月割抽籤

十五日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日以後ヲ以テ右抽籤法ヲ

係レハ半ケ月分ヲ下渡スヘキモノトス

行ヒシキ迄ノ分下渡スヘシ

第四章 證書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債證書ニ交換セント欲スル者ハ其

紙幣並ニ紙幣ノ金高ヲ記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差

出スヘシ

第七條 前條ニ依リ地方廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取り其受領

証ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ

納付シ其受領証ト共ニ金札引換公債證書申請書ヲ大藏省國債局

ニ送付スヘシ

第八條 第六條ノ手續ニ從ヒ交換願書ヲ差出シタル者ニ地方廳ヨ

リ其受領証ヲ交付スルコト各月十五日以前ナレハ其一ケ月分ノ年

利ヲ拂渡シ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ計算シテ其年利ヲ拂

渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ第七條申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公

債證書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ

並ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管廳へ送達スヘシ

第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類

枚數番號記號ヲ公債掛ノ簿冊ニ登記シ及證書裏面ノ右側ハ債主

ノ姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加ヘ第七條ニ依リ本人へ渡置

キタル受領証ト引換ヘニ證書ヲ交付スヘシ

但証書交付ノ後他管ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製シ毎翌月五日迄ニ大藏省國債局ニ届出ツヘシ

第十一條 前條ニ依リ公債証書ト引換ヘタル受領証書ノ裏面ニ本
 人ヲシテ証書ノ受取ヲ記サシメ翌月五日迄ニ之ヲ取纏メ明細表
 ヲ添ヘ大藏省國債局ヘ送致スヘシ

第五章 証書ノ様式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債証書ハ從前ノ金札
 引換公債証書無記名利札付ノ様式ヲ用ヒ不要矛盾ノ文字ハ朱書
 ヲ以テ點竄スヘシ

第十三條 金札引換公債証書ノ所有者ニ於テ初メテ之ヲ他人^{外國}
 人^{外國}ニ賣渡シ若クハ讓渡サントスル時ハ其証書ヲ其地方管廳ニ差

出シテ繼是紙ヲ請願スヘシ

管廳ニ於テハ新舊公債証書ニ用ケル繼是紙ヲ該証書ノ左側ニ糊
 付繼印シテ請願人ニ下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サザル上其
 檢印ヲ取計フヘシ

但シ利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日迄
 十月一日ヨリ十一月十五日迄証書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合ス

第十四條 此條例頒布以前交附シタル金札引換公債証書ノ記名無
 記名ノ分共改定ノ証書ト引換ヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年^{五月}第九十五
 號布告改正新舊公債証書發行條例第四條ヨリ第十二條迄及右ニ

關シ爾來改正增補ノケ條ニ準據スヘシ

○番一中島盛有外 簡單ニ本按改定ノ旨趣ヲ説明スヘシ抑モ本按ノ目的タルヤ已ニ成文ニ掲クルカ如ク現ニ發行セル紙幣ヲ消却スルニアリ蓋シ金札引換公債證書ハ當初金高二百萬圓許ナリシニ目今ハ上リテ四百五十萬圓餘ニ至レリ而シテ近來紙幣ノ價格ハ大ニ變動シタレハ之ヲ救治スルハ理財ノ急務タルヲ以テ先ツ本證書ヲ發シ其交換ノ紙幣ハ漸次裁斷シテ信ヲ紙幣ニ置カシメ其價格ヲ維持スルモ亦一ノ要領トス然ルニ現行ノ條例ハ往々官民共ニ不便ヲ蒙ルモノアリ故ニ改良シテ此ノ如クセハ彼是共ニ其便ヲ得ルソミナラス一般ノ記憶ヲ挽起シ紙幣消却ノ目的ヲ達スルニ庶幾ラント信ス尙ホ各條ノ意味ハ問ニ從テ答辯スヘシ

○廿六番柴原和 本官ハ本按ニ對シ質問スヘキ箇條三アリ第一ニ六目

今政府發行ノ紙幣ハ其額幾許アルヤ第二ニハ明治六年ノ頃ハ準備金額二千萬圓アリト聞ケリ今日果シテ幾許ノ増減アリヤ第三ハ紙幣交換準備金ノ制限定數ハ如何ソヤ若シ夫レ紙幣ニ十分ノ價格アリトセハ其制限ハ之ナキモ或ハ不可ナシト雖モ今ヤ証書ヲ發スルニ方リ或ハ爭フテ引換ヲ求ムルモノアルニ至ラハ悉ク之ヲ交換スルノ目的アリトスルヤ敢テ辯明ヲ乞フ

○番一中島盛有外 現今發行紙幣ノ數ハ一億千八百圓許ニシテ其準備金ハ一千萬圓内外ナリ又第三問ナル制限ノ事ハ一理アルヲ質問ナレモ之ヲ今日實際ノ經驗ニ推スニ決シテ爭フテ引換ヲ要ムルカ如キコアラサルナリ故ニ目今ハ四百萬圓ヲ度トセリ何トナレハ本證書

ハ他ノ公債證書等ニ比スレハ利息ノ割合高カラサレハナリ已ニ本
 証書ハ利足六朱ノ成規ニシテ即チ是ト其期限トハ全ク新舊公債證
 書條例第十一條ニ準據セリ故ニ制限ハ之ヲ立ント欲スルモ實際ニ
 ○於テ立ツル能ハサルヘシヤト七萬一争フテ引換ヲ要スルモ以テ
 毛此場合ニ臨メハ造幣局ノ鑄造又ハ臨時借入等ニテ必ス事ニ支障
 ナキヲ信スルナリ

○廿六番 柴原 答辯ヲ得テ本按ノ主旨ヲ明カニスト雖モ今日ノ景況
 依レハ決シテ其言ヲ如ク行ハルヘカラズ苟モ茲ニ制限ナクシハ
 陸續引換ノ煩ヲ起スハ鏡ニ掛テ見ルカ如シ内閣委員ハ縱モ其時
 及ヲモ必ス事ニ支障ナシト云ト雖モ勢ヒ止ムヲ得ス外債ヲ起メ等
 ○ノ事アルヤ知ルヘキナリ故ニ本官ハ斯ル危殆ナル法按ハ一旦之ヲ

廢棄シ更ニ美善ナル按ヲ立テサレ可ラストス尙ホ十年ノ後ニハ全
 ク正金ヲ以テ引換得ヘキヤ否ヤヲ確認シ然ル後ニ論及セントス

○三十番 中島 本官モ亦質問スルトコロアリ第十二條ナル從來ノ證
 書ヲ點竄スル如キハ固ヨリ儉約主義ニ出シモノト思考スレハ頗ル
 不体裁ノ律文ナルカ如シ蓋シ他ニ故アリヤ又第十四條ノ場合ニ於
 テハ新舊ノ區別ヲ悉ク新法ニ從ハシムルノ意ナリヤ

○番 中島 十二條ノ文ハ固ヨリ節儉ヲ主トセルモノナリ何トナ
 レハ該證書ハ已ニ二拾万枚モ摺出シ其製モ頗ル精緻ニシテ今日ノ
 製ノ如キトハ頗ル同シカラズ且本按ハ新立ノ法ニアラスシテ舊法
 ノ改正ナレハ舊ニ依テ之ヲ用フルモ不可ナシトスレハナリ又十四
 條ノ意味ハ元來無記名証書ハ簡便ナルカ如シト雖モ記名ノ盜難火

災等ニ罹ルモ記憶シ易クシテ官民兩便ナルニ如カサレハ無記名ノ分ハ到底之ヲ廢止スルノ見込ナルニ依リ且之ヲ改定證書ト交換セサレハ條例兩ナカラ行ハサル可ラサルモノ、如ク其不便利ニ堪ヘサルヲ以テナリ

○州番中島 信行 十二條ノ説明ハ明了ナリ十四條ニ至リテハ只記名ノ便利無記名ノ不利等ヲ云フニ過キス本官ノ問フ所ハ舊公債證書ハ自カラ從來ノ習慣アリシニ之ヲモ合セテ本按ニ從ヒ更ニ十二年間ヲ延スモノトスルカ否ヤニアリ更ニ其辯明ヲ請フ
○番一中島 盛有 年數ノヲハ第五條ニ證書交付ノ年ヨリ云々トアレハ其當人ノ引受ケタル年ヨリ起算スルコトニシテ順次皆然リトス尙ホ舊條例及ヒ新條例ノ交換手續ハ別ニ大藏卿ヨリ達スルナルヘシ

○州番中島 信行 再應ノ答辭ハ益々不分明ナリ仍テ其如何ハ之ヲ第二讀會ニ讓リ本官ハ本按ノ大体ニ就キ茲ニ意見ヲ陳述ス可シ抑モ本按ノ主旨ハ紙幣ノ下落ヲ防クニアリト云フト雖モ果シテ此一令ヲ以テ其功ヲ奏スヘキヤ否ヤ舊法ハ其引換ハ正金ナルモ其利足ハ或ハ紙幣ヲ以テ辨スルコトアリ本按ハ利足モ亦正金ヲ以テスト云ヘ且纔ニ此ノ如キノ小差ノミニシテ一般紙幣下落ノ大患ヲ救フヨ得ヘキヤ否ヤ素ヨリ保シ難キノミナラス本官ハ其充分ニ引換ヲ爲スニ堪ヘサルヲ信ス良シヤ十分ニ之カ引換ヲ爲スヲ得ルトモ殘餘ノ紙幣ハ依然低下ノ地ニアルハ理ノ見易キ所ナリ然レハ則チ之カ救治ノ法ハ只政府ノ信用ヲ恢復スルニ外ナラス蓋シ其信用ヲ恢復セントスルニ當リ紙幣引換ハ果シテ充分ニ遂クヘキヤ悉ク正金ヲ渡スコト

ヲ得可キヤ若シ其目的確乎タルニ於テハ敢テ不可ナシト雖此法
 一度施行シ二百萬乃至三百萬圓ノ正金ヲ運轉シテ之ニ應セントス
 ルモ決シテ其結局ヲ全フスルヲ得サルハ何トナレハ縦ヒ公債証
 書ト云フモ亦只一種紙幣ノ類ノミ已ニ紙幣ヲ信セサレハ公債証書
 モ亦同シキヲ以テナリ若シ夫レ紙幣ノ多キヲ云ハハ本官モ之ニ疑
 アルモ亦論題ノ外ナリトス到底本按ヲ不充分ナリトスルヲ以テ爰
 三廢按ノ説ヲ提出セントシタレモ枉テ中ノ情緒ヲ留メ全部附托
 ノ修正委員ヲ擇ヒ内閣委員ト熟議シ此不充分ナル按ヲ改メ充分ニ
 修正セシコトヲ建議ス
 ○卅一番^{玉乃}内閣委員ノ辯明ニ依レハ本按改定ノ主意ハ紙幣不落
 ヲ防クノ策ナリト云フ然レモ本官ハ之ヲ公布シ人民其需メニ應ス

ルヤ否ヤニ疑問アリ何トナレハ本証書ハ三年ノ後六シ天僅カニ六
 朱ノ利息オレハナリ今ヤ正金ノ價格ハ非常ニ騰貴シ貿易市場殆ト
 四五割ノ勢ナリ三年六圓ノ利息ヲ以テ之ニ比スレハ其差如何ニヤ
 而シテ三年以後六シテ其價尙同シ之次公債ニ應スルノ人心ハ
 果シテ満足ナルヘキヤ其之ニ應セサルヤ明ク未シ金祿公債証書
 ノ如キハ祿ヲ與フ所モ以テ變成セシモオレハ六朱ノ利息モ尙ホ
 ○可ナリト雖此本按ニシテ彼ト利ヲ同フ且三年ヲ過タルカ上ニ抽
 籤法ヲ以テ拂渡ストセハ特ニ利ヲ僥倖スルモノニ似タリ知ラス此
 等ノ點ハ法律ニ明揭スル以外或ハ内規則ノ如キモノアリ債主ヲ
 獎勵スルニ足ルモ殊不ヤ若シ夫ノ華族等以蓄金ヲ集ルカ爲メ
 ナル別ニ改正スルニ及ハサ此其如ク雖此已ニ之ヲ改正シ天廣

タ公衆ヨリ収集ルモノトセハ其利ヲ僥倖スルカ如キ姿アレハ是ヨ
 其益信ヲ失フヘク紙幣下落ヲ防カントシテ却テ其勢ヲ助長スルニ
 至ラン敢テ間フ抽籤法ノ如キ別ニ内規則等以能ク之ヲ整頓スルモ
 外アリヤ
 ○番ニ番中島盛有 本按ノ目的ハ紙幣下落ヲ防クニアレモ素ヨリ是ヲミ
 ヲ以テ十分ニ其挽回ヲ期スルニアラス然レモ人民之ヲ請求シ來ラ
 ハ多少其効アルハ疑ヒヲ容レサルナリ故ニ其請求者ハ十萬人ヨリ
 廿萬人之カ引受人ノ多クハ即チ其好結果ヲ得ヘシ又之ニ應スル
 モノモ亦一概ニ私利スニ汲々タルモノニアラサルヘシ若シ夫レ
 之ヲ爲スモ後來紙幣愈々下落セハ本證書モ亦從テ無益ナルカ如シ
 ト雖モ已ニ結局ノ見込アルヲ以テ此ニ改正シテ民人ニ示サントス

ルナリ又向フ十二年間政府ノ都合ニ依リ抽籤法ヲ以テ云々ノ條ニ
 ○對シ三十一番ハ疑訝ヲ插マル、如シト雖モ是レ誠ニ政府臨機ノ都
 合ナレハ必ス別ニ内則アリテ確實正明ニスルナリト云ヲ得サルモ
 亦決シテ危殆ナルコトナモ信スルナリ
 ○十番笑作 本按第五條ニハ向フ十二年間政府ノ都合ニ依リ抽籤法
 ヲ以テ償却云々トアリ現行條例ニハ十五年ヲ過クレハ借上云々ト
 アリ兩個對觀スレハ權利ト義務ト倒置セルカ如シ本按ニ從ヘハ向
 フ十二年ノ後ニ至ラハ政府ハ之ヲ引換ルヲ義務ナシトスルカ且間
 フ舊法ニ依リ政府今日迄ニ拂戻シタル金額幾許ナルヤ併テ明辯ヲ
 請フ
 ○番ニ番中島盛有 政府ノ都合トハ所謂政府ノ懷中模様ヲ云フ故ニ何年

○何程何歳ニ幾許トハ明示セサルナリ且ヤ現行條例ノ十五年間ニ
 付トアルハ當時人民ハ之ヲ賣渡サスト云ヘハ大ニ困却スルノ情ア
 リテ今日ノ形況トハ全ク反對ノ思想トシテハナリ故ニ本按ハ之ヲ改
 メ十二年間ハ決シテ動かサス又拂戻ハ明治六七年ノ間ニ引受人
 數ハ二百二十三萬八千二百五十圓ニシテ爾後漸次ニ拂戻セシ分
 三千五百二十萬圓ナリ十二年ノ引受高キ乃チ四百五十萬圓トス
 ○三十番渡邊 本按第三條ニ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ云々トアリ抑
 紙幣ノ截斷ハ幾許ノ割合ヲ以テスルカ將タ其幾何圓ヲ論セス無算
 合之ヲ截斷スル乎敢テ辨明ヲ乞フ五圓ニスルヤハ云々ト云々ト
 ○外中島 番一盛有 其成規ト云ハ已ニ印刷局ニ慣例アリ當初ハ云々之ヲ
 布告セシト雖モ輒近ハ別ニ公布セズテ截斷セリ蓋シテ通用セズト

見認ムルモノハ幾萬圓ヲ問ハス悉ク截斷スルナリ

○三十番中島 信行 已ニ諸官ノ質議モ畢リタルニ似タリ本官別段ノ建議
 ヲ衆議ニ問ヒ之ヲ決セラレントヲ乞フ云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト

○十五番安場 保和 三十番ノ建議ヲ賛成ス本按改定ノ旨趣ハ已ニ聽了ス
 下雖モ此國家財務ニ關スル至要ノ法按ニシテ條中往々充分ナラズ

○修正ヲ要スルモノ一ニシテ足ラサルアリ仍テ全部附託ノ委員ヲ擇
 ヒ熟議セントスルハ間然ナキ建議ト認ムルナリ

○卅三番渡邊 昇 本按ヲ一閱スルヤ本官ハ大ニ其改定ノ舉ヲ賛セシニ
 今内閣委員ノ辯明ヲ聽キ反テ不満足ノ意ヲ生セリ委員ハ政府ノ都

○合ニ依リト云ハ所謂其懷中模様ヲ指ヌモノニテ拙籤ノ事ハ豫定セ
 スト云フ若シ果シテ然ラハ誠ニ是レ無用ノ案ナリ知ラス其言信ナ

ルヤ否ヤ
 ○番一中島盛有然リ已ニ年々幾許ト掲ケサレハ之ヲ豫定セサルヤ判然タリ蓋シ只政府ノ懷中都合ナルノミ意ヲ主シ
 ○卅三番渡邊昇本官ハ錯雜ノ言ヲ聞クヲ要セス只引換ノ目的アルヤナキヤ片言以テ決答セラレシコトヲ乞フ
 ○番一中島盛有既往ノコハ其目的ヲ立ルヲ得ルモ事將來ニ涉ルモノハ素ヨリ豫定スヘカラス故ニ其請求人ノ多少ニ依リ時ニ都合ヲ爲スノミ
 ○議長 質疑已ニ悉クト認ム第一讀會ハ此ニ了リ乃チ三十番ノ全部附託委員ヲ命シテ修正スルノ建議ニ決ヲ取ラシ之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ三十番ノ建議ニ決ス
 ○三十番中島信行本官ノ建議ヲ可決セラレシハ本懷ノ至ナリ仍テ更ニ建議ス本按ハ條緒錯雜ニシテ且經濟上重大ノ件ナレハ特ニ五名ノ委員ニ托セラレシコトヲ望ム
 ○議長 三十番ノ再建議ハ議長ニ於テ之ヲ採用シ即チ四番水本二十津田三十番中島信行三十一番世履渡邊ノ五名ヲ以テ委員トス仍ホ第二讀會ハ其報告ヲ待テ開議スヘシ散會セヨ

午前第十一時三十分閉場

記者曰左表ハ參照ノ爲メ修正委員ヨリ修正按ニ添ヘテ報告アリタル者ナリ然レトモ議場ニ於テ其朗讀ナキニ依リ此ニ登録

シテ以テ閱覽及便ニ供スルニ付テ其限額ナキニ付リ其ニ登録
 ○明治十三年九月廿三日調公開
 十三年九月廿三日調公開
 ○明治六年發行高調開
 明治六年發行高調開
 ○明治九年八月抽籤
 明治九年八月抽籤
 ○明治十一年九月抽籤
 明治十一年九月抽籤
 ○明治十三年四月抽籤
 明治十三年四月抽籤
 現在高

殘金百貳拾八萬六千百圓
 同七年發行
 一金六拾五萬八千三百五拾圓
 內
 金五萬六百五拾圓
 金貳萬五百圓
 合四金七萬千五百五拾圓
 一冊殘金五拾八萬七千貳百圓
 現在高
 明治十三年發行
 明治十三年發行
 現在高
 二十五

一記名證書百三拾七萬四千圓 十六年ヨリ抽籤可相成分

同上 但八月十二日迄

一無記名證書百七拾萬貳千圓 全上與并高

合四百九拾四萬九千三百圓

明治十三年四月廿四日

明治十三年四月廿四日

明治十一年九月廿九日

明治十一年九月廿九日

内

一金六拾五萬八千三百五拾圓

明治九年八月廿九日

同小半銀百七千五百圓

明治十一年九月廿九日

金五萬九千九百圓

與并高

元老院會議筆記明治十三年九月廿七日

○第二百號議按金札引換公債證書發行第二讀會第二百二號檢視
條例改定ノ儀布告按後之ヲ開ク

議長代理 佐々木高行

出席議員

二番 津田 出

三番 神田 孝平

四番 水本 成美

五番 東久世通禧

六番 本田 親雄

八番 山口 尙芳

九番 黑田 清綱

十番 箕作 麟祥

十一番 楠本 正隆

十二番 福岡 孝弟

十三番 安場 保和

十四番 中村 弘毅

十五番 鶴田 謙

十六番 大給 恒

十七番 福羽 美静

十八番 柴原 和

○第百九十九號議案 津田 眞道
大久保一翁

○第二百號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百一號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百二號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百三號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百四號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百五號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百六號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百七號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百八號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第二百九號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○第三百號議案 出淵 官 廿四番
福羽 美静

○議長會全體一致ナルヲ以テ修正報告按フ本按ト爲ス

○編纂書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

明治六年三月第二百一十壹號布告金札引換公債證書發行條例並改正追加ノ分共更ニ別冊ヲ通り改定候條此旨布告候事

○十番 實作 本按改定ノ意趣ハ政府紙幣ノ下落ヲ救ヒ之ヲ減消セ

トスルニ出ツルモノニシテ其意ハ誠ニ美ナリ然レハ之ヲ冀贊スル

ニハ人民ヲシテ極メテ信用ヲ挽起セシムルヲ以テ目的トセサル可

ラス抑モ明治六年三月第六十一號布告發令ノ頃ハ人民ノ金札ヲ

貴重スルヲ猶正金ニ勝ルカ如ク固ヨリ今日ヲ以テ比較スヘキニア

ラス是ヲ以テ人民ハ之ヲ証書ニ引換ルヲ欲セサルモ政府ハ之ヲ引

換シムルニ充分ノ權理アリトセリ然ルニ今ヤ物價騰貴シ紙幣下落

○入秋ニ際シテハ之カ消却法ヲ計ルハ素ヨリ理財ノ急務ナレハ人民

ヲシテ目ヲ此ニ注キ以テ之ニ懷カシメサル可ラス而シテ之ヲ爲サ

シニハ名實相副フノ法律ヲサレハ不可ナリ蓋シ本按ノ精神ハ金

札引換ト云フト雖正金札ト稱スルハ現行法律當初發表ノ時ノ通語

ニシテ今ヤ悉ク紙幣ノ字ヲ慣用トセリ故ニ本按揭タル所モ亦皆紙

幣ノ字ヲ用フ然レハ則チ金札ノ字ヲ改メ更ニ紙幣引換トセンカ猶

ホ不妥ヲ覺フルモノアリ仍テ之ヲ正金引換ト爲サント欲ス其故ハ

本按第五條ニ依リ十二ケ年間ニハ遂ニ全ク正金ヲ以テ拂戻スノ精

神ナレハ其目的ハ正金引換ニアルト明カナレハナリ然レ正金ニ金

札ノ字ヲ正金ニ改ムルノミニテハ猶首尾整ハサルヲ以テ之ヲ一齊

ニ修正シテ明治六年三月第六十一號布告金札引換公債證書發行條

例並改。正。追加。分。共。相。廢。シ。更。正。金。引。換。公。債。證。書。發。行。條。例。別。冊。之。
 通。相。定。候。條。此。旨。布。告。候。事。ト。爲。サ。ハ。意。味。分。明。ナ。ラ。シ。若。シ。夫。レ。否。テ。ス。
 シ。ハ。良。シ。ヤ。人。民。ノ。記。憶。ヲ。挽。起。ス。ル。モ。其。引。換。ヲ。危。シ。テ。之。ニ。應。ズ。ル。モ。
 本。或。ハ。少。ク。政。府。ノ。目。的。モ。爲。メ。ニ。達。セ。サ。ラ。ズ。且。テ。恐。ル。幸。ニ。諸。官。ノ。贊。
 成。ア。リ。テ。此。說。ノ。行。ハ。レ。ン。コ。ト。ヲ。希。フ。五。金。民。衆。ノ。意。見。モ。亦。然。ス。其。如。ク。
 ○二十七番 津田 本官ハ修正委員之一人ニ更テ其修正の方ヲ思ヒ然
 ニ及ハサリシモ今十番ノ說ヲ聞クニ大然本其スル所アリ金札引
 換ト云フハ今日ニシテ適切ナラサル文字也其直其之ヲ正金引換
 トナサ公名實相副ヒ且人民ヲ欲望モ亦多カルヘシ因テ之ヲ贊成ス
 ○議長 十番ノ修正說ハ贊成者アルヲ以テ問題トス而モ其意ハ
 ○八番 山口 本官ハ原按以テ可ナク蓋其十番ノ說ハ人民ノ需

求如何ヲ顧慮スルニ起ルノ老婆心切ナルニ似タレトモ能ク翻テ紙
 幣ノ性質ヲ察スル所ハ釋然自悟スルナルヘシ抑本按ノ証書タル即
 チ紙幣ヲ引換ルモノニアラスヤ金札ハ則チ紙幣ナリ金札引換ト云
 フモ猶ホ他ノ秩祿ト云ヒ金祿ト云ヒ起業ト云フノ類ト一般ナリ論
 者ハ新公債証書ノ如キハ如何セントスルヤ我邦ニテ最モ新シキ証
 書ハ起業公債ナリ然ルニ其舊キモノニシテ依然新公債証書ト呼フ
 ○ハ是レ証書附着ノ名詞ナレハナリ本按固ヨリ其結局ハ正金ト代ル
 ノ証券ナリト雖モ証書ノ性質ハ金札即チ紙幣ニ交換スルモノニシ
 テ舊法ノ改正ニ外ナラサルナリ若シ今之ヲ正金ト變セントスレハ
 或ハ金札ト正金トノ引換公債証書ト云ハサルヲ得サルニ至ラン故
 ○十番ノ婆心ハ之ヲ嘉スルモ其說ハ從フ能ハサルナリ

○十二番 楠本正隆

十番ノ修正ハ一理ナキニアラスト雖此本証書ハ直ニ正金ニ代ルモノニアラサレハ八番ノ説ヲ適當ナリトス然レ此本官ハ別ニ大体ニ就キ論説アルヲ以テ今敢テ其是非ヲ喋々セス十番ノ説消滅セハ尋テ自説ヲ提出スヘシ

○三十三番 渡邊昇

十番ノ意ハ佳ナリト雖此是レ畢竟杞憂ナリトス若シ新ニ發行スルモノナレハ之ヲ正金トスルモ不可ナシト雖此已ニ發行セシモノヲ改正スルニ止マレハ互ニ矛盾スルヲ奈何セン又金札ト云ヘハ正金ノ反影ナルハ言ヲ俟タスト雖此之ヲ明々地ニ揭示スルトハ或ハ正金消却ノ証書ナルヘシトノ疑惑アルヲ期セス餘ハ八番ノ述フルカ如ク之ヲ感覺上ヨリ論スルモ原按ヲ可トス

○二十六番 柴原和

本官ハ第一讀會ニ於テ聊カ端緒ヲ開キシ如ク姑ク

本按ヲ廢棄セシトスルニヨリ原按ハ素ヨリ十番ノ説ニモ同意スル能ハス仍テ若シ十番ノ説消滅セハ自説ヲ提出セントスルヲ以テ茲ニ豫メ其大畧ヲ陳セントス抑本按改定ノ精神ハ紙幣下落ヲ救フニ在リト云ヘハ政府ノ意想モ亦嘉スヘキカ如シト雖此果シテ之ヲ公布シテ人民ノ需求如何ナルヤ豫知スル能ハス之ヲ内閣委員ニ聞クニ現今紙幣ノ總數一億八百萬圓許ニシテ準備金額ハ一千萬圓許ナリト加フルニ尙ホ多ク銀行紙幣アリ若シ之ヲ發表シ人民競フテ引換ヲ求ムルハ抑又如何スヘキヤ蓋シ第五條ノ意味ニ從ヒ政府ノ都合ニ自リ之ヲ處分スヘシト雖此若シ十二年ニシテ全ク其目的ヲ達セサルハ或ハ又十二年ヲ順延スルアルモ知ル可カラズ此ノ如クセハ民心ヲ失ヌル最モ甚シク正金銀ハ益々拂底シ紙幣ハ益

ヤ下落シ帝ニ政府ノ其目的ヲ達スル能ハサルノミナラス自他ノ公
債証書ニモ影響ヲ及ホスヤ必セリ勢ヒ此ニ至レハ政府モ已ムヲ得
ズシテ外國債ヲ起シ之ヲ救ハサルヲ得サルニ至ラン外債ヲ忌テ内
債ヲ募リ遂ニ兩ナカラ之ヲ爲サハルヲ得ストスレハ寧ロ自守シテ
着手セサルヲ勝レルニ如カス若シ夫レ内閣ノ意ノ如ク實際ヲ想像
シ果シテ是ナルヲ得ハ又論スルヲ須ヒスト雖モ萬一反對ノ結果ヲ
在セハ將タ之ヲ如何スルヤ明治六年ノ頃ハ紙幣却テ金銀ヨリ貴キ
モ僅カニ數年ノ今日ニシテ反對ノ色ヲ顯ハシ人民ハ已ニ金札引換
公債証書ノコヲ忘却スルニ方リ突起法律ヲ以テ之ヲ惹起セントス
ルカ如キハ却テ其惑ヲ來スヤ明カナリ且内閣委員ハ前會ニ於テ政
府干涉シテ人民ヲ勸奨スト云ヒ又新按ニ無記名ヲ省キシハ不便ヲ

避クモソナリト云フハ是レ自家ノ撞着ナリ人民ハ無記名証書ヲ
簡便ナルヲ喜フハ言ヲ待タサルニ今之ヲ廢セハ却テ其需求ヲ減省
スルハ識者ヲ待テ後ニ知ラサルナリ想フニ政府ノ深意ハ其勸奨ニ
アラスシテ之ヲ限制スルノ手段ナル可シ故ニ本官ハ現行ノ條例ニ
テ可ナリトス尙ホ其詳細ハ問題トナリテ後ニ辯明スヘシ
○三十一番 玉乃 世履 本官モ修正委員ノ一人ナリ然ルニ十番ノ說出テハ
聊カ感觸ヲ發セリ抑モ十番ノ金札ノ字ヲ存スルハ不適當ナルハ之
ヲ改メシト云フハ是ナリ然ルニ今之ニ代フルニ正金ノ字ヲ以テセ
ントスルニ至テハ八番ノ駁議ノ如ク不可ナリト云サルハカヲ又蓋
シ明治六年三月ノ布告ニ金札ト云ヒシハ時ノ慣習ニ從ヒシモナ
レハ今日ニ於テハ今日一般ニ慣用スル紙幣ノ字ヲ以テスルヲ當然

トス況ンヤ按中諸條ニ皆紙幣ノ字ヲ用フルニ於テヲヤ已ニ實地引換モ紙幣ヲ用フル上ハ本官ハ慣用ニ從ヒ實地ヲ顧ミ金札ノ字ヲ改メテ紙幣ト爲サントス仍テ十番ニ左袒スル能ハス其問題消滅セハ之ヲ提出スヘシハ豈ヤ然ルニ今之ニ對シテハ五金ノ字ヲ以テ

○十番實作三十一番ノ議ハ本官已ニ詳陳スル所ナレハ其意ハ各官

○三モ領セテハ本官ハ寧ろ名目ヲ改ムルトセハ其最モ適切ナルモロニ從ハントスルヲ然ルニ八番ハ他ノ諸公債ノ名目ヲ引証シテ之ヲ駁セリ若シ彼等ヲシテ秩祿引換公債証書舊引換新引換等ノ文字ナレハ或ハ可ナラシ然レモ引換ト云フハ例ハ鰻飯ノ切手ヲ持テ鰻飯ヲ受取り鰻節ノ切手ヲ持テ鰻節ヲ受取ルカ如キモノナリ已ニ然ラサル者ノ名ヲ以テ此引換証書ニ比スルハ本官未ダ其可ナ

ルヲ知ラサルナリ又三十三番ハ之ヲ改正スレバ已ニ製シタル証書モ無用ニ属スルヲ恐ルト云ヘレ苟モ紙幣下落ノ大難ヲ救フニ於テハ些少ノ損失ハ顧ミルニ違アラス尤モ是等ノ事項ハ第十二第十三ノ諸條ニ至テ論セント思考セシナリ畢竟政府ノ目的ヲ達センニハ人民ヲシテ鋭敏ニ其美法ナルヲ感覺シ注意ヲ挽起セシムルヲ要スルヲ以テ文字ノ雅俗如何ハ之ヲ問ハス只正金ノ目的ナルヲ明示スルヲ最モ是ナリトスルナリ

○四番水本 成美十番縷々ノ辯アレレ本官ハ太タ不同意ナリ其說ニ公債証書ヲ持參セハ正金ヲ得ルヲ以テ本旨トスト云フ豈夫レ然ランヤ試ニ第二條ノ文ヲ看ヨ人民ヨリ紙幣ヲ差出シテ公債証書ト引換ストアルニアラスヤ布告按ノ金札引換ト云フハ全ク此ニ在リ元利金

ノ仕拂ハ蓋シ後ノ話ナリ十番ノ説ハ主客ヲ誤ルモノナルヲ以テ原

按ヲ可トス

○外一番盛有中島 十番ノ修正説ハ稍々理アルカ如シト雖モ今四番ノ辯

○ノ如ク主客ノ考ナカル可ヲオ正金ハ畢竟客ノ文字ナリ客ヲ以テ主

ニ易ヘントスルハ本按ノ精神ヲ害シ太々不可ナリ然ラハ之ヲ紙幣

引換ト云ハンカ慣用ノ文字ヲ更改スルハ又奇ヲ好ムニ似タリ況ン

ヤ現行法律ノ改正ニ過サルニ於テヲヤ

○津田 眞道二十七番 本官ハ既ニ十番ノ説ニ賛成セリ然ルニ本修正ノ如

キ其實熱心ニ可否ヲ論スヘキトニアラス如今十番ノ鰻飯及鯉節切

手ノ譬ニテ十分判明ナリト信ス且其修正ノ理由ハ古證文ハ之ヲ棄

舍スルモ更ニ便利ナル者ヲ以テスルニ如カスト云フニ過キサルヲ

リ若シ之ヲ改正シテ本按條中ニ抵觸スルモノアレハ從テ之ヲ改ム

○ヘシ題外ノ條文ヲ引テ之ヲ駁スルハ當ラサルナリ畢竟原按ノ如キ

不備ノ者ヲ公布シ人民ノ望ヲ收メントスルハ得テ爲スヘカラス各

位ハ何ヲ苦ンテ修正ノ美ヲ賛セスシテ不備ナル條文ニ拘泥スルヤ

本官ハ更ニ其意ヲ得サルナリ

○渡邊 昇三十三番 十番ノ説ハ既製ノ証書面ニモ改刪ヲ及ホスモノト

セハ本官ハ更ニ之ヲ陳辯セサルヲ得ス果シテ修正ノ如クハ以テ

民信ヲ固フスルニ足リ既製ノ証書ヲ零紙ニ付スルモ充分ニ相償フ

ヲ得ルトオスカ縱令一萬圓ノ証書ト雖モ苟モ方法改正ノ爲メニ之

ヲ崩潰スルヤ大ニ人民ノ向背ニ關シ天下ノ興廢ニ影響ス法ヲ爲ス

ノ弊此ニ至レハ本官ハ最モ憂慮ニ堪ヘサルナリ且ヤ正金交付ノ事

ハ四番ヲ辯明ノ如ク乃チ末ノ末ナリ末ヲ以テ本ヲ動カヌハ未タ其
 可ナルヲ知ラス又某議官ハ曰ク近來世人ハ金札ト云ハスシテ紙幣
 ト云フ故ニ之ニ從フヘシト或ハ然ラシ然レモ鄙野ノ人ニ至リテハ
 十中ノ八九ハ皆札ト云フ常トシ紙幣楮幣等ノ聲ハ夢ニタモ聞カザ
 ルモノ、如シ故ニ慣用ノ字ヲ用ヒントセハ舊ニ依テ金札トスルヲ
 宜シトス十番ハ八番ノ説ヲ駁スルニ他ノ証書ト比ヌルハ不都合ナ
 ルト云フト雖モ本証書モ均シク公債ノ証書ナリ其性質ト功能トニ
 於テ何ソ彼此ノ異ナルアラシヤ共ニ是レ固有ノ名詞ナリ故ニ改ム
 可ラス

○四番 水本 成美

本官ノ主客ノ辯明ニ對シ或議官ハ條文ヲ以テ綱領ヲ傷
 スヘカラスト云フト雖モ夫ノ經節切手鰻飯証券ノ比喻ノ如キハ全

ク誤謬ニアラスヤ金札引換ト云フハ取モ直ク買手ノ錢ヲ携テ其
 切手ヲ買取スル場合ト同ニシテ此切手ヲ以テ鰻飯經節ヲ受取ル
 時機トハ同シカラズ本官ノ所謂ル後ノ話ナリト云フモノハ即チ鰻
 飯及經節ヲ受取ルノ場合ヲ指スナリ各官ノ誤解アラシク恐レ再
 ○ヒ之ヲ説明ス

○三番 神田 孝平

本按ヲ可トス十番ノ修正説ハ只正金ト金札ト名目ノミ
 ヲ代フルニ止マラスシテ大ニ精神ヲ害スルモノナリ且均シク公債
 證書ナレハ固ヨリ他ノ證書ト異ナルコナシ是レ畢竟交換ノ手續キ
 ヲ指スモノナレハ名目ハ改ム可カラズ

○二十番 渡邊 驥

本官ハ文字ノ改削ハ大ニ本按ノ精神ヲ害スルモノ
 アラサルヘシト雖モ寧モ慣用ノ字ヲ存スルノ便利ナルニ如カスト

ス且人民ハ明治六年以來此條例ノ在ル有ルハ決シテ忘却スルモノ
 ○ニアラス其應募ノ少ナキハ只危懼ノ念慮如何ニアルノミ故ニ俄然
 其名ヲ改ムレハ却テ之カ疑惑ヲ増スアラシ本按ハ決シテ記憶ヲ揮
 揮スルカ如キ類ニハアラサルナリ
 ○議長 發議ノ盡クルヲ認ム十番ヲ修正説ニ同意者ハ起立スヘ
 ○起立者三人
 ○議長 少數ナルヲ以テ十番ノ修正説ハ消滅ス
 ○三十一番玉乃 本官ノ修正説ハ改メテ之ヲ詳述スルヲ俟タヌ各位
世履
 ハ已ニ之ヲ知ラル可シ乃チ「金札」ヲ改メテ紙幣トスルノ説ナリ夫レ
 金札引換ト云ヘハ世間業已ニ忘却スルモノ多ク此時ニ方リ卒然金
 札ノ文字ヲ掲出セハ其何事ナルヲ悟ラサルモノアルヘシ内閣委員

云ク本條ノ精神ハ政府人民ヲ獎勵スルモノナリト已ニ然ラハ一般
 ニ記シ易キノ名目ヲ付スルヲ以テ可ナリトス乃チ夫ノ造船規則ノ
 如シ航海者ハ能ク之ヲ奉シテ須臾モ忘レサルヘキモ他商ハ全ク之
 ヲ忘ル、ナラン本按已ニ一般ノ忘却スル時ニ於テ金札ト突起セハ
 或ハ誤テ所謂太政官札民部省札ニ止ルモノトスルモ亦料ルヘカラ
 ス由テ明カニ現今ノ紙幣タル旨ヲ示スヲ可トス
 ○十番箕作 本官ノ説已ニ消滅シタル上ハ寧ロ其説ニ近キモノヲ可
麟祥
 トセサルヘカラス仍テ三十一番ヲ賛成ス
 ○議長 三十一番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス
 ○四番水本 此問題ニモ亦從フ能ハス三十一番ノ説ニシテ全ク布告
成美
 按ヲ改刪ス云ハ、稍々解スヘキモ只其布告文中金札以字ノ改

刪セハ乃々現行條例ノ題目ヲ交替スルモノニシテ此ノ如キハ金札
 ○ノ字ヲ以テ前條後例相背馳セシムルノミナラス本按ヲ議スルニ方
 ○リ太々之ニ切中ナリトナサス因テ不可ナリトス
 ○十番辨作本官ノ三十一番ヲ賛成セシハ布告按ノ修正モ全ク本官
 ○ノ説ノ如クシ只其正金ノ字ヲ紙幣ト修正セシモト信スルニ依テ
 ナリ若シ布告按ヲシテ原按ノ如クナラシメ獨リ金札ノ字ノミ紙幣
 ト改ムルモノナレハ之ニ同意スル能ハサルナリ
 ○三十一番玉乃十番ノ説ハ當然ナリ依テ之ニ應シ並ニ四番ノ駁論
 ニ答ヘントス本官ハ已ニ十番ノ説問題タリシ時ニ於テ其修正文ハ
 悉ク賛成スレモ獨リ正金ト云フニシテ從フ能ハスト云ヘリ故ニ今
 本説ヲ發スルニ方リ其煩冗ニ涉ラントコヲ恐レ單簡ヲ主トシテ之ヲ

陳述セサルノミ此ノ如ク辯明セハ四番ノ疑團モ亦自ラ消滅スヘシ

ト信ス

○八番山口此問題ハ十番ノ修正説ニ比シテ猶ホ不可ナリトス若シ

之ヲ紙幣引換公債証書發行條例別冊之通相定候ト布告スルキハ人

民ハ之ヲ見テ如何ノ感想ヲ發スルヤ看ヨ全國ノ人民ハ金札ト云ハ

○ハ擧テ之ヲ知ラサルハナシ之ヲ紙幣ト云フ誰カ能ク詳知スヘキヤ

明治六年ニ金札ト云テ已ニ一般之ヲ服膺シ都鄙通唱トナレリ爾後

擧者輩カ徒ラニ雅馴ノ字ヲ冠ムラシムルト雖モ其邊陲ノ地ニ至ツ

テハ決シテ金札ヲ指テ紙幣ト稱スルモノアラサルナリ況テヤ是法

律文ナリ豈慣用ノ字ヲ去テ漫ニ雅馴ヲ好マンヤ斯ノ如キハ太々不

○可ナリ

○外番一盛中島 現法ヲ廢シ更ニ紙幣引換條例ト爲サントスルハ實ニ巨害アリトス今現行ノ條例ヲ準繩トスレハ大ニ手續ヲ煩ハヌノ憂ナキモ若シ新陳代謝スルニ至ラハ特リ入費ヲ消スルノミナラス其從來證書ノ所有主ニ對シ何ヲ以テ處分セントスルヤ此ノ如キハ事益ナク業ニ害アリ本員ハ甚タ不當ノ修正ナリト云ハサルヲ得ス

○三十一番玉乃世履 縦ヒ修正ノ如クスルモ内閣委員ノ懸念ノ如キハ決シテ之レアル可カラス何トナレハ本按十二條ヲ看ヨ同條文中ニ不要矛盾ノ文字ハ點竄スト云フニアラスヤ已ニ點竄スルモノトセハ之ヲ紙幣引換トスルモ其元質ハ毫モ變ルコナク其様式モ亦舊ニ依テ之ヲ用フレハ可ナリ大凡ソ何ノ法律條例ヲ論セス其元質ヲ變セサレハ皆然ラサルモノナシ然ラハ則チ其手續ノ如キ決シテ繁冗ノ

憂ナシト信ス又八番ハ紙幣ノ字義ヲ咎メ是レ學者ノ雅馴ヲ好ムモノ、如ク論了スト雖已ニ紙幣ト云ヘハ一般普通ノ名ニシテ殊ニ本按條文ニモ皆已ニ之ヲ用フルニアラスヤ故ニ故ラニ雅馴ヲ好ムトハ蓋シ是誣ルノ類ノミ

○外番一盛中島 三十一番ハ新舊法ノ交代ニ於ル事々皆然リト云ヘ本按ノ如キハ決シテ他ノ法例ノ類ニ比ス可ラス凡ソ各法令中ニ就キ人民政府トノ約束アルモノ之ヨリ重キハナシ故ニ其不妥ノ點アレハ之ヲ改ムヘキモ容易ニ之ヲ廢スヘキモノニアラス若シ夫レ之ヲ全廢セハ從來ノ債主ニ對シ利息渡方等ノ段落ヲ成スヲ得スシテ順序大ニ紊亂スルヤ必セリ已ニ此段落上ヨリスルモ舊法ヲ廢スルハ不可ナリ

○議長 發議盡ルヲ認ム三十一番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ三十一番ノ修正說ハ消滅ス

○二十六番 柴原和 姑ヲク本按ヲ廢棄スヘキノ說ハ本官業已ニ之ヲ畧

陳セリ其理由ハ現行條例ニシテ實地毫モ差支ナシトスレハナリ看

ヨ已ニ現行條例行ハレテヨリ世ニ公債ノ負擔者アルモ紙幣ノ下落

八年ヲ逐テ甚ダシキニアラスヤ是別ニ其因アルヤ明ナリ然ルニ今

僅カニ二三ノ改正ヲ加ヘテ此條例ヲ發スルモ豈能ク之ヲ恢復スル

ヲ得ンヤ均シク人民ノ信ヲ失フヘキ結果アルノミ故ニ斯ル拙策ヲ

用ヒンヨリハ宜シク他ノ方略ヲ勉ム可シ畢竟本按ノ如ク實施セハ

遂ニ外國債ヲ促スノ場合ニ至ランコ鏡ニ掛テ見ルカ如シ夫レ此ノ

如キカ寧口直ニ外債ヲ促シ早ク人民ノ不信ヲ求ムルヲ勝レリトス

且之ヲ聞ク本按ハ人民ノ忘却ヲ呼覺スルノ主旨ナリト果シテ然ラ

ハ本年ニ至テ出願者ヲ多キヲ加ヘシハ如何シヤ是其人民ノ忘却セ

サルヲ表スルニ足レリ豈亦無用ノ事ナラスヤ又聞ク這回ハ記名証

書ノミトスト知ラス是何ノ目的ナリヤ人民ノ無記名ヲ欲スルヤ已

ニ本年發行ノ証書ニ於ケルモ記名百三十萬圓ニシテ無記名百七十

萬圓ノ多キヲ以テ知ルヘキノミ人情已ニ然リ孰カ之ニ反セントス

ルヤ蓋シ改正ノ點ハ是等ト利息金ノ數項ノミ餘ハ悉ク舊ニ異ナラ

ス而シテ其舊ニ異ナルモノ多クハ皆非ナリ是レ本官ノ廢按ヲ唱フ

ル所以ナリ

○十五番 安場保和 賛成ス已ニ動議者詳細ノ辯アレハ別ニ贅スルニ及ハ

○スト雖此前會ニ於テ内閣委員ハ向ニ申請者ナキニ紙幣下落シ今年ニ至リ復タ申請者多キヲ以テ之ヲ獎ムル爲メナリトノ意ヲ述ヘタリ然ルニ紙幣ノ價格ヲ維持セントスルハ今日ノ要務ナルヘシト雖此本按ノ如キ僅カニ利息拂方ト其度數ト及ヒ無記名ヲ廢スルニ止ルカ如キハ如何シテ之ヲ挽回スルヲ得ンヤ蓋シ其精神ハ紙幣減却ニアリト云フト雖此大凡事物ハ利弊得喪相伴フモノナリ只目前ノ利ノミニ迷フテ他ニ思及セサルハ決シテ好結果ヲ保ツヘカラス本官ハ以爲ラク今若シ本按ヲ施行シ三年据置キ四年目ヨリ向十二年間ニ政府ノ都合ヲ以テ拂戻スト云フモ其事確然行ハルヘキヤ已ニ確乎タル目的アリトセハ或ハ賛成スヘシト雖此内閣委員ニシテ未タ之アラスト云フ豈不安心ナル話柄ナラスヤト縱ヒ好目途アルモ

未來ノ事ハ猶ホ危殆ナルニ已ニ之ナシトセハ何ヲ以テ之ヲ信スヘキヤ抑紙幣下落ヲ救フノ策ハ廟堂ノ有司ヲ初メ民間ノ志士ニ至ルマテ其爲ズヘキノ道ヲ盡サハ猶ホ良策ヲ得ヘシ只一篇ノ法例ヲ改ムルカ如キ能ク其目途ヲ達ス可キニアラサルヲ信スルナリ

○議長二十六番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題トス時正ニ正午ナリ喫飯ノ爲メ一旦散會スヘシ

正午閉場

午後第一時開場

退席

津田

○議長午前引續ノ會ヲ開ク

○十二番楠本
正隆

午前本官モ意見ノ陳ス可キアリト云シハ乃チ廢按ノ
說ナリシ熟々本按ヲ閱讀スルニ明治六年ニ發セシ現行條例ノ改定
ニ係ルモノナリト雖モ均シク利息ハ六朱ナリ只文中ニ政府ノ都合
ヲ以テ抽籤法ヲ行フトノ新文字ヲ見ルアルノミ且内閣委員ノ説明
ニ依レハ改定ノ目途ハ陸續引換ノアラシクヲ希望スト云モ人民ノ
其引換ヲ申請セサルハ之ヲ好マサルナリ之ヲ好マサルハ乃チ利息
ノ高廉ニ關ス今ヤ改正ノ旨趣已ニ其引換ノ多キヲ欲シ而シテ依然
利息ヲ加フルコトナシ豈其レ申請者ノ多キヲ望ムヘケンヤ且是ヲ以
テ眞ニ紙幣ノ下落ヲ救ヒ人民ノ信用ヲ買ハント欲セハ抽籤ノ金額
ヲ增多セハ可ナラシ然ルニ明治六年發行ノ時ヨリ同十二年ニ至ル
ノ間抽籤ノ金額年々ニ減少セリ商鑑遠カラス焉ソ民心ヲ得ルノ道

アラシヤ然ルニ今又之ヲ改正スルニ斯ル曖昧不定ノ文字ヲ以テス
ルハ太々解スヘカラサルコトナリ殊ニ記名無記名等ノ如キ僅々ノ不
便ヲ鳴シテ之ヲ改廢スルハ畢竟無用ノ改定ト云ハサルヲ得ス是レ
本官ノ廢按論旨ニシテ符ヲ廿六番ニ合セシ所以ナリ

○三十一番玉乃
世展 本官ハ修正委員ノ一人ナリ當時之ヲ調査セシニ六
年現行條例發行ノ意ハ誠ニ美ナリ何トナレハ逐次正金ト交換スル
ノ條緒ヲ立テ以テ其不換紙幣ニ非サルノ信ヲ表スルカ爲メナレハ
ナリ然ルニ其施行ノ手續ニ於テ稍々改正ヲ要スル所アルヲ以テ茲
ニ本按ヲ發スルハ之ヲ揚賞シテ美ニ美ヲ添ルモノト云サルヘカラ
ス然ルニ廿六番等ノ廢按說ヲ聞クニ本按改定ノ點ニ對シテハ更ニ
故障ヲ述ヘス唯金札引換ニ苦情ヲ鳴スモノ、如シ此ノ如キハ縱ヒ

其說是ナリトスルモ是レ今日ニ在テ述フヘキ説ニ非ス全ク題外ノ
 論ト云ヘキナリ且廿六番ハ内閣委員ハ自家撞着ノ説ヲ爲セリト云
 ト雖モ其解説ヲ聞タハ只無記名証書ノ如何ヲ論スルノミ然ルニ改
 正按ハ其不便ヲ察シテ益々便ナラシムルモノナレハ需求者ハ却テ
 多キヲ加フルハ論ヲ待タサルニ之ニ對シテ便否ヲ鳴ラスハ所謂ル
 人ヲ尤メテ自カラ撞着スルモノト云フヘシ故ニ若シ本按全体ヲ否
 トセハ各條ニ就キ一々其非ヲ舉ケヨ一字一句ト雖モ之ヲ改ムレハ
 改正ナリ改正ノ點些少ナリト云テ之ヲ改正ト云フ可ラサルノ理由
 ハ決シテ之アラサルナリ

○三十三番渡邊昇 二十六番ノ動議ハ甚々其意ヲ得ス思フニ本幹ヲ棄
 テ、枝葉ヲ論スルモノ、如シ何トナレハ金札引換ニ對シテ不同意

ヲ唱ヘサルヲ以テナリ其金札引換ナル本旨ヲ去テ之ヲ誘起スルノ
 方法ヲ破毀セントスルハ財政ノ目的ニ反スルモノトス其言ニ云ク
 此ノ如クセハ政府ハ外國債ヲ募ルニ至ラント斯ル未來ノ想像ヲ以
 テ事ヲ争フルハ決シテ議場ノ整頓ヲ見ルヘカラス本官等既ニ委員
 ノ撰ニ當リ各位参考ノ目途ヲ示サンカ爲メ金札引換証書ノ履歷ヲ
 附シテ報告セリ然ルニ之ニモ關セス民心外債等ノ豫想ヲ囁々スル
 ハ是何事ソヤ又或議官ハ多ク正金ヲ拂戻サ、レハ不可ナリト云フ
 ○夫レ然リ然リト雖モ財政ノ法ハ其道ヲ取ルニ適宜ヲ得サル可ラス
 行政ノ都合モ亦察セサル可ラサルナリ且紙幣ノ下落ヲ救フニハ是
 等ノ手段ヲ以テスルハ無用ノ煩勞ナリトノ説アリ本官モ亦素ヨリ
 其充分ナラサルヲ信スト雖モ此大難ヲ救フニハ歩々漸進シテ種々

ノ方法ヲ用ヒサルヘカラス施政者ノ苦辛豈思ハサルヘケンヤ是ヲ之レ察セスシテ坐上ノ想像ヲ以テ本按ヲ廢棄ニ付セントスルハ是レ奇ヲ好ムモノト云ハサル可ラサルナリ

○十二番楠本正隆 三十三番ハ本官等ノ説ヲ誤解セリ本官固ヨリ引換ヲ不是ナリト云フニ非ラス只改正ヲ否トスルノミ知ラスヤ近來世上已ニ不換紙幣等ノ説ヲ唱フルモノアルコト然ルニ其引換ノコトハ已ニ明治六年ノ布告ニアルモ只金銀ノ拂底ナルヨリ此困難ニ至リシナラスヤ回顧セヨ明治八年ニハ僅カニ二萬五千圓ヲ引換ヘ以來抽籤次第ニ減少シ近年ニ至リ太ニ其數ヲ増スト云フモ其實二百萬圓ヲ交換スヘキ時ニ方リテ漸ク其半額ヲ引換ヘシノミ故ニ本按ノ如キ目的ヲ達セントセハ須ラク現行法ニ大修正ヲ加ヘ恰當ノ抽籤法

ヲ明示シ其利子ヲ高フスヘシ然ラサレハ何ノ改正ヲ爲スモ皆無益

○大リトスルナリ 適々賛成ヲ得テ本官ノ説問題トナリシニ又多クノ

○二十六番柴原和 駁議アレハ重テ之ヲ辯セサルヲ得ヌ本官ト雖全ク之ヲ不是トスルニアラス畢竟明治六年後抽籤ノ僅少ナルニヨリ斯ル改正ヲ爲スルモ亦六年度ノ如キ依然紙幣ノ位置ヲ保ツヘキノ期ナシトスルノミ故ニ姑ク之ヲ措キ別ニ適實ナル改定ヲ爲スカ若ク本院意見書ヲ呈スルカノ意想ナリ本按ノ如キハ良シヤ一時人民ノ忘夢ヲ呼覺スルモ到底其救濟ノ道ヲ得サルヤ明クシ或議官ノ如キニ至ツテハ廢棄論ハ奇ヲ好ムモノナリ想像説ヲ以テ行政ヲ妨障スルカト論及セリ本官素ヨリ行政者起草ノ意ヲ詳知セヌト雖已ニ下付アレハ

之ニ對シテ意見ヲ述ルハ職トシテ辭スヘカラサルモノトスルヲ以テ熱心其ヲシテ民心ヲ失ハサラシメンコトヲ勉ムルナリ若シ外國債等ヲ募ラハ果シテ民心ヲ失ハサルト爲スカ方今紙幣過多ナルニ加フルニ銀行紙幣等亦夥シ是其下落ノ媒ヲ爲セリ今年申請者ノ多キハ乃チ又其影響ナラスヤ此時ニ當リ本按ヲ布告セハ果シテ矯正ニ功アリトスルカ僅カニ人民ノ忘却ヲ呼醒スカ爲メニ堂々タル法令ヲ發スルハ恐クハ天下ノ笑ヲ招カン行政官ノ爲ス所ト雖此之ヲ非トセハ廢棄ヲ唱フルモ何ノ妨カ之アラン豈夫レ奇ヲ好ムモノナラシヤ

○八番 山口 尙勞 議論紛々タリ然ルニ廢按論者ノ論旨ハ其レ將タ安クニ在ルヤ未タ確然タラスト雖此其午前ノ發論ハ已ニ三十一番ノ駁議

ニ悉シ午後ノ論モ亦只之ヲ敷衍スルニ過キサル如シ要スルニ本按ヲ施行セハ外債ヲ徵スヘシ無記名証書ハ便利ナリ之ヲ廢セハ申出者ヲ増ス可ラスト云フノ類ニ外ナラス又行政官ノ起草ニ係ルモ立法官ハ之ヲ云々スルノ說アリ素ヨリ其可否ヲ議シテ妨ナキモ其是ナルモノニ就テ殊ニ未來ノ迷ヲ生スルニハ及ハサルコトナリ抑明治六年布告ノ條例ハ果シテ完全ナリトスルヤ其記名無記名ノ一事ヲ舉クルモ記名ノ災難相續等ニ便アルハ言ヲ俟タス是等皆適當ノ改正ナリ且ヤ今日正金紙幣ノ價ヲ同フセサルハ地租改正以來農民ノ富ヲ致シ金銀ヲ貯藏スルモノ多ク其媒ヲ爲セリ然ルニ本按ハ利息ハ悉ク正金ヲ以テ拂渡スコトナセハ金銀ノ力爲メニ全國ニ融通スルノ効ヲ奏スルヤ必セリ彼是考察セハ本改正ノ結構ハ妙ノ又妙

ナルモノト云ツヘシ然ルヲ之ヲ廢シ現行法ニテ可ナリトスルハ何事ソヤ只一箇條ニテモ不是ナルモノアラハ全体ヲ改正スルモ固ヨリ妨ケナシトス故ニ本按ハ廢棄ス可ラス

○外一番盛中島 本按ヲ廢セントスル論者ハ誤見モ亦甚タシト云フヘ

シ其説ニ紙幣有高準備金額公債証券ノ數等ヲ掲テ駁論スト雖此是等ハ本按ニ對シテ切要ナル論辯ニアラサルナリ又近日紙幣ノ變動ヲ以テ本按改定ノ基本ヲ如ク云ヒ不換紙幣ノコヲ引用スト雖此不換紙幣ノコハ只新聞紙上ノ空言ニシテ漫ニ之ヲ信シテ論旨トスルハ不可ナリ世豈不換ノ紙幣アラシヤ且本按第二條ノ如キハ新定ノ法文ナリ之ヲ要スルニ正貨紙幣ノ變動ハ時ニ依テ異同アレハ之ヲ改良スルハ主治者ノ最モ意ヲ注クヘキ要點ナリトス銀行紙幣ノ如

キハ縱ヒ幾千萬圓アルトモ敢テ之ニ關スルモノニアラサルナリ

○三十三番渡邊昇 廢按論者ハ本官ノ説ヲ誤解ナリト云テ自カラ亦本

官ノ説ヲ誤解セリ本官ハ只本幹ヲ措テ枝葉ニ論及スルハ不可ナリト云ヒシナリ蓋シ其本幹トハ引換ノ點ニアリ然ルニ金札ノ引換ハ已ニ之ヲ是トシ而シテ其引換方法ヲ否ナルモノヲ改定スルヲ非難スルハ何ノ意ソヤ本按中利息ヲ正金ニテ渡シ記名証券ノ便利ヲ付シ且利子ノ二度渡等ノ類ハ最有用ナル改正ナルニアラスヤ然ルヲ徒ニ基礎定ラサルノ説ヲ以テ之ヲ廢セントスルハ其可ヲ知ラス又立法者ニシテ行政者ノ處置ヲ駁スル固ヨリ不可ナシト雖此其是ナルモノヲ併セテ之ヲ打破セントスルハ本官ノ固ヨリ好マサル所ニシテ論者ノ本按ノ如キニ對スルヤ乃チ是レナリ若シ夫レ正金利息

ハ非ナリ兩度利子渡シハ不可ナリ等着々論理ヲ以テ之ヲ駁セハ本官何ソ之ヲ咎メンヤ其理由不定ニシテ漫ニ排撃ヲナスハ是レ奇ヲ好ムモノニアラスシテ何ソヤ

○四番水本成美

廿六番等廢按説ノ根據トスル所ハ只將來ヲ揣摩セル想像説ニ過サルノミ若シ其言ノ如キモノトセハ現行條例ノ儘ニテモ亦同シ政府豈無算ナル布告ヲ爲サンヤ然ルニ獨リ將來ノミヲ杞憂セハ遂ニ何事ヲモ議スヘカラサルニ至ラン思フニ現行條例ト本按トヲ比スレハ其改定ノ是ナルハ反對論者モ亦必ス之ヲ知ルヘシ縱ヒ少シクモ其是ナルヲ知ラハ乃チ可決シテ可ナデスマ現行法ノ如キモ引換一時ニ蠲集スルナキヲ保タサレハ其ヲ杞憂スレハ限度ナシ況ンヤ内閣委員ハ已ニ引換ニ堪ユルノ目的アリト云フニ於テヲ

ヤ仍テ廢按ハ不可ナリ

○十二番楠本正隆

三十三番ノ説ノ如ク現行條例ニハ改正按ノ如キ明文ナシト雖モ利子渡方ノ外ハ皆實際ニ之レアリ現ニ本年四月十日發行ノ金札引換公債証書面ニモ正金云々ノ明文アルニアラスヤ衆官ノ迷ヲ解ク爲メニ之ヲ一言ス

○三十一番玉乃世履

十二番ハ廢按論者ナリ然ルニ今公債証書ノ明文ヲ引テ正金ノ事ヲ述フ書面已ニ其文アレハ規則ニ之ヲ掲クルハ尤モ至當ナラスヤ其引証ニ依テ自カラ敗兆ヲ顯ハセリト云フヘシ

○議長 發議盡クルヲ認ム二十六番ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ二十六番ノ修正説ハ消滅シ本會ハ爰ニ畢リ

明廿八日續會ヲ開クヘシ本日ハ散會セヨ

午後第二時二十分閉場

元老院會議筆記明治十三年九月二十八日

○第二百號議按金札引換公債証書發行條例改定ノ儀布告按第二讀會九月廿七日ノ續

議長東久世通禧
代理

出席議官

- | | | |
|-----|----|----|
| 二番 | 津田 | 出 |
| 三番 | 神田 | 孝平 |
| 四番 | 水本 | 成美 |
| 六番 | 本田 | 親雄 |
| 八番 | 山口 | 尙芳 |
| 十番 | 箕作 | 麟祥 |
| 十二番 | 楠本 | 正隆 |

- 十三番 福岡 孝弟
- 十五番 安場 保和
- 十八番 中村 弘毅
- 廿一番 鶴田 皓
- 廿二番 大給 恒
- 廿七番 津田 眞道
- 廿八番 大久保一翁
- 卅一番 玉乃 世履
- 卅二番 林 友幸
- 卅三番 渡邊 昇

内閣委員 番外 太政官權大書記官中島 盛有

午前第九時四十分開場

○議長 本日ハ議長副議長共ニ欠席ニ依リ本官代理ヲ爲シ第二百號議按第二讀會ノ續キヲ開ク各位例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第一章 總則

第一條 金札引換公債ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フモノトス

○二十二番 大給 恒 本條ニ脱漏ト思ハル、所アリ即チ冒頭ニ金札引換公債ハトアリテ証書ノ二字ナシ他ノ條ニハ皆之レアリ且之レナクシハ穩當ナラサルモノ、如シ依テ此二字ヲ加ヘント欲ス

○四番 水本 成美 本官等修正委員ニアリテ已ニ第二條ノ文ニモ之ヲ加ヘ

シニ全ク本條ノ修正ヲ脱セリ實ニ至當ノ修正ナルニ由リ之ヲ賛成ス

○議長 二十二番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○三十一番 玉乃 世履 賛成

○三十二番 林友 幸 賛成

○議長 他ニ發議ナキヲ認ム二十二番ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ二十二番ノ修正ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 何人ニテモ 外國人ヲ除ク 第四條ニ記載スル各種証書面ノ金高ノ

紙幣ヲ差出シ金札引換公債証書ニ交換スルコトヲ得ヘシ

○八番 山口 尚芳 本條ニ修正アルニアラスト雖本官ハ第四條ノ文ヲ茲

ニ繰上テ第二條トナシ本條ヲ第三條トシ其文中「第四條」ノ字ヲ前條

ト改メ第三條ヲ第四條トシ而シテ第二章ヲ廢セントス其故ハ第一

條ニ於テ已ニ証書ノ性質ヲ揭示セシ上ハ其次ニ其種類ヲ示シ然ル

後其用法ニ至ルヲ順序トスレハナリ尤モ各條ノ意味ヲ動カスニア

ラス只其位置ヲ變換セント欲スルノミ

○十番 箕作 麟祥 賛成

○二十一番 鶴田 皓 賛成然ルニ本官ハ第二條ニ但書ヲ添加セント要ス

ルモノアリ八番ノ說決セシ上ニ之ヲ述フヘシ

○議長 八番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○二十二番 大給 恒 八番ノ議ハ能ク順序ヲ整フル者ナリ仍テ賛成ス

○議長 發議悉クルヲ認ム八番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十三人

○議長 多數ナルヲ以テ八番ノ修正説ニ決ス

○二十一番 鶴田 皓 本官ハ第二條即チ修正第三條ニ但書ヲ加ヘントス

○蓋シ政府人民ノ信用ヲ堅フセント欲セハ其發兌ノ定數ヲ示サ、ル可ラス然ルニ本按ニ於テハ更ラニ此指示ナシ思フニ下落紙幣ノ價格ヲ回復シ之ヲ減消スルヲ目的トスレハ別ニ指定セスシテ可ナリトスルノ意ナラン然レモ苟モ人民ニ公布スルモノニシテ之カ定數ヲ示サスンハ世人或ハ準備金額ノ少ナクシテ交換如何ニ危懼ヲ生シ爲メニ需求者ノ多少ニ影響スルヤ必セリ本官ハ思フテ此ニ至レハ此善良ノ改定モ遂ニ其目的ヲ達セサランヲ憂フ仍テ之ヲ慥ムル

○カ爲メニ但元利金拂渡豫算ノ都合ニ依リ期限ヲ定メ一時交換ヲ停止スルコアルヘシトノ添加ヲ爲セハ明カニ定數ヲ示サ、ルモ引換多額ニ陥ルノ憂ナク需求者競進ノ場合ニ於テモ大ニ雙方ノ便利トナルヘキヲ信スルナリ

○二番 津田 出 賛成

○議長 二十一番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○十二番 楠本 正隆 二十一番ノ動議ハ頗ル親切ナルニ似テ却テ大ニ本按ノ要旨ヲ害スルヲ以テ之ヲ辯駁セン本官等已ニ廢按論ヲ提出セシモ其行ハレサル上ハ極メテ民信ヲ失ハサランコトニ注意セサルヘカラス蓋シ本按ノ精神タルヤ假令政府ハ身代ヲ蕩盡スルモ紙幣ヲ引換ルノ主旨ナレハ一方ヨリ之ヲ見レハ本証ニ制限ヲ立ルヲ以テ或

ハ信用ヲ得ルニ似タルモ其實却テ信用ヲ失スルノ媒トナル可シ看
 ヲ政府ニ於テハ今日決シテ多數ノ準備金ヲ有セサルノ證ハ世ニ不
 換紙幣アリト云フヲ以テモ知ルヘキナリ此時ニ方リ制限ヲ立テ引
 換ヲ定ムルハ即チ其底意ヲ暴露スルモノニシテ諺ニ所謂毛ヲ吹テ
 疵ヲ求ムルノ類ノミ若シ夫レ人民陸續紙幣ヲ持出サハ大藏省ハ寸
 時モ支ユ可ラス遂ニ全ク本條例ヲ廢セサレハ已マサラン然レモ實
 地ノ景況必ス此ノ如キコアラサルヲ知ル此見込アリテ漸ク本按ノ
 憑據トナレルナリ然ルニ之カ制限ヲ立テ底意ヲ顯ハシ人民ノ需求
 ヲ促カスカ如キハ全ク本按ノ精神ヲ破ルモノナレハ之ヲ本按翼賛
 ノ論ト云フヘカラサルナリ

○四番水本
成美

本官モ亦十二番ト意ヲ同フス修正説ノ如キハ量負ノ引

倒レナル諺ニ同シク好結果ヲ求メント計リテ却テ惡結果ヲ促スモ
 ノト云フヘシ已ニ十二番ノ説ノ如ク我紙幣ハ悉皆交換ノ性質タル
 ニ關ハラズ不換紙幣ノ姿アルモノハ何ソヤ是救濟ノ道未タ開ケサ
 レハナリ而シテ本按ハ其十五年間ニ於テ之カ道ヲ開カントスルモ
 ノトス然ルニ都合ニ依テ其要用ナル需求者ヲ停止セントスルハ乃
 チ其進路ヲ妨障スルモノニシテ寧ロ本按ヲ布告セサルノ勝レルニ
 如カス且動議者ノ顧慮ヲ解ンニハ第五條ニ政府ノ都合ニ依テ抽籤
 法ヲ爲スノコアリ彼ヲ以テ是ニ推セハ萬一ノ時ニハ之ヲ融用スル
 ハ言外ニ含有スルト見ルモ可ナリ況ンヤ内閣委員ノ説明ニ依レハ
 引換資金ハ充分ニ之レアリ縱ヒ損耗ヲ爲スモ引換ニ差支ヲ爲サ、
 ルノ見込ナリト云フニ於テヤ然ハ則チ政府ノ意ハ制限ヲ欲セサ